

令和3年度 第3回三郷区地域協議会

次 第

日時：令和3年6月28日(月)午後6時30分～

会場：三郷地区公民館 2階 集会室

(全体：2時間20分程度を予定)

1 開 会

2 議題等の確認

3 報告

(1) 令和3年度地域活動支援事業について

4 議題

(1) 三郷区の現状について

①三郷区の健康課題について

(健康づくり推進課から説明のあと、質疑応答)

②三郷区の人口・世帯数の動向について

(創造行政研究所より説明のあと、質疑応答)

(2) 自主的審議事項について

5 事務連絡

6 閉 会

令和3年度 三郷区 地域活動支援事業 採択事業内定一覧

資料No1

【三郷区】の地域活動支援事業補助金の配分枠：4,900千円

※ 当日の審査・採点委員数：12人

順位	整理No.	事業名	提案団体名	事業費(千円)	補助希望額(千円)	基本審査		優先採択審査			共通審査						左記を踏まえた内定			
						「適合する」の人数	「適合しない」の人数	結果	「該当する」の人数	「該当しない」の人数	公益性	必要性	実現性	参加性	発展性	合計点数	平均点	採否	補助額(千円)	
1	3	三郷区高齢者支援・交流事業(「買い物ツアー」の実施)	三郷まちづくり振興会	134	125	12	0	優先	12	0	50	51	51	43	50	245	20.4	採択	125	
1	5	「三郷のあゆみ」編集事業	「三郷のあゆみ」編集委員会	899	898	12	0	優先	12	0	54	49	51	42	49	245	20.4	採択	898	
3	1	西松野木町内安全・防災対策事業	西松野木町内会	839	838	12	0	優先	12	0	51	49	51	44	42	237	19.8	採択	838	
4	8	さんごう仲間づくり事業	ENJOY35	116	110	12	0	優先	12	0	47	49	48	45	46	235	19.6	採択	110	
5	2	三郷地区の歴史・史跡を研究する事業	三郷地区の歴史・史跡を研究する会	248	247	12	0	優先	12	0	50	47	49	41	47	234	19.5	採択	247	
6	4	三郷小児童利用時の安全確保・見守り事業	三郷小学校後援会	1,193	1,190	11	1	優先	11	1	49	49	46	41	42	227	18.9	採択	1,190	
7	6	三郷楽しい健康体操事業	楽しい健康体操教室	108	102	12	0	優先	12	0	47	47	46	40	44	224	18.7	採択	102	
8	7	三郷料理教室事業	エプロン	30	29	12	0	優先	10	2	42	40	43	38	42	205	17.1	採択	29	
合計				3,567	3,539															3,539

＜提案事業に対する附帯意見＞
 採択された全ての事業：提案事業の実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に努め、今後の発生状況に応じて、適切な対応をとること。
 なお、提案事業の中止、変更をする場合は、早めに南部まちづくりセンターに必ず報告すること。

整理No.4：当該地は、滑りやすい坂道であるため、降雨時の路面排水を考慮した構造になるよう施工業者と十分な打ち合わせのうえ実施してください。

採択事業数	8件
補助金配分額計	3,539千円
予算残額	1,361千円

上越市三郷区 人口・世帯数の動向

項目

スライド番号

- | | | |
|-----------|-------------------|--------------|
| 1 | 総人口と年齢構成 | …… No. 1～9 |
| 2 | 人口動態（出生・死亡、転入・転出） | …… No. 10～20 |
| 3 | 世帯数と世帯構成 | …… No. 21～28 |
| 4 | 人口の将来予測 | …… No. 29～32 |
| 参考 | 人口問題の受け止め方 | …… No. 33～36 |

はじめに ～ 本紙データの注意点 ～

▶ 様々な統計データを活用しています。

各種統計によって集計方法や時期、定義などが異なるため、他の資料の数値と比較する場合などには、ご注意ください。以下は一例です。

人口に関するもの	<ul style="list-style-type: none">・ 国勢調査(総務省統計局)・ 住民基本台帳に基づく人口(各市町村)・ 推計人口(or 人口推計)(総務省統計局、都道府県)
人口動態に関するもの	<ul style="list-style-type: none">・ 人口動態調査(厚生労働省)・ 新潟県人口移動報告(新潟県)・ 住民基本台帳移動報告(総務省統計局)・ 住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査(総務省自治行政局)

例 1)最新値

- ・国勢調査 2015年
- ・その他 2019～2020年

例 2)「年」の定義

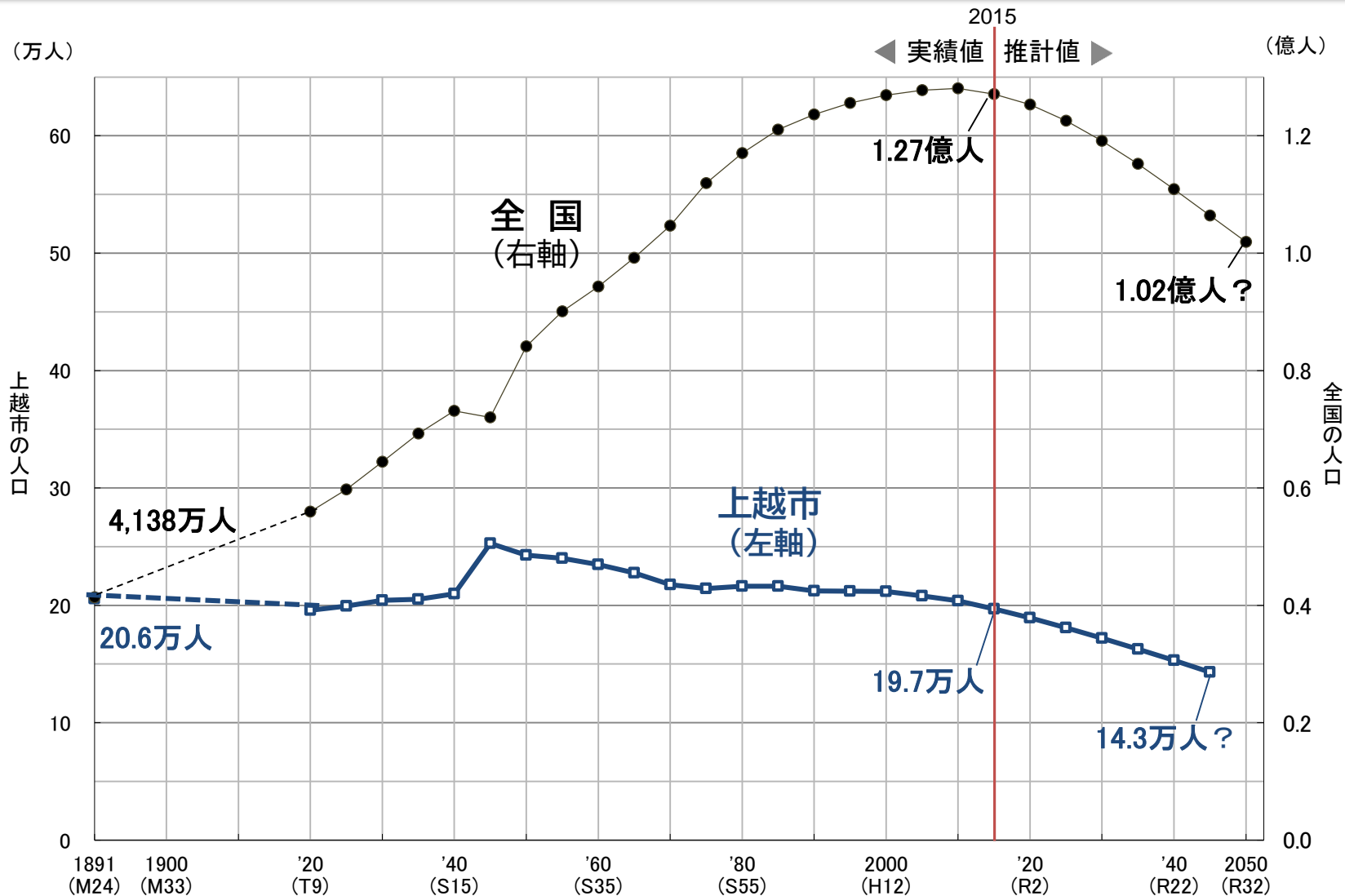
- ・国勢調査 10月1日基準
- ・新潟県人口移動調査 前年10月～当年9月
- ・厚労省人口動態調査 暦年(1月～12月)
- ・その他、年度(4～3月)の場合もあり

▶ 地域自治区別データは、町丁字(住所)単位のデータをもとに集計しています。

実際の地域自治区は行政区(町内会)単位で構成されているため、合併前上越市の一部の区では、実際の値と若干の違いがあります。

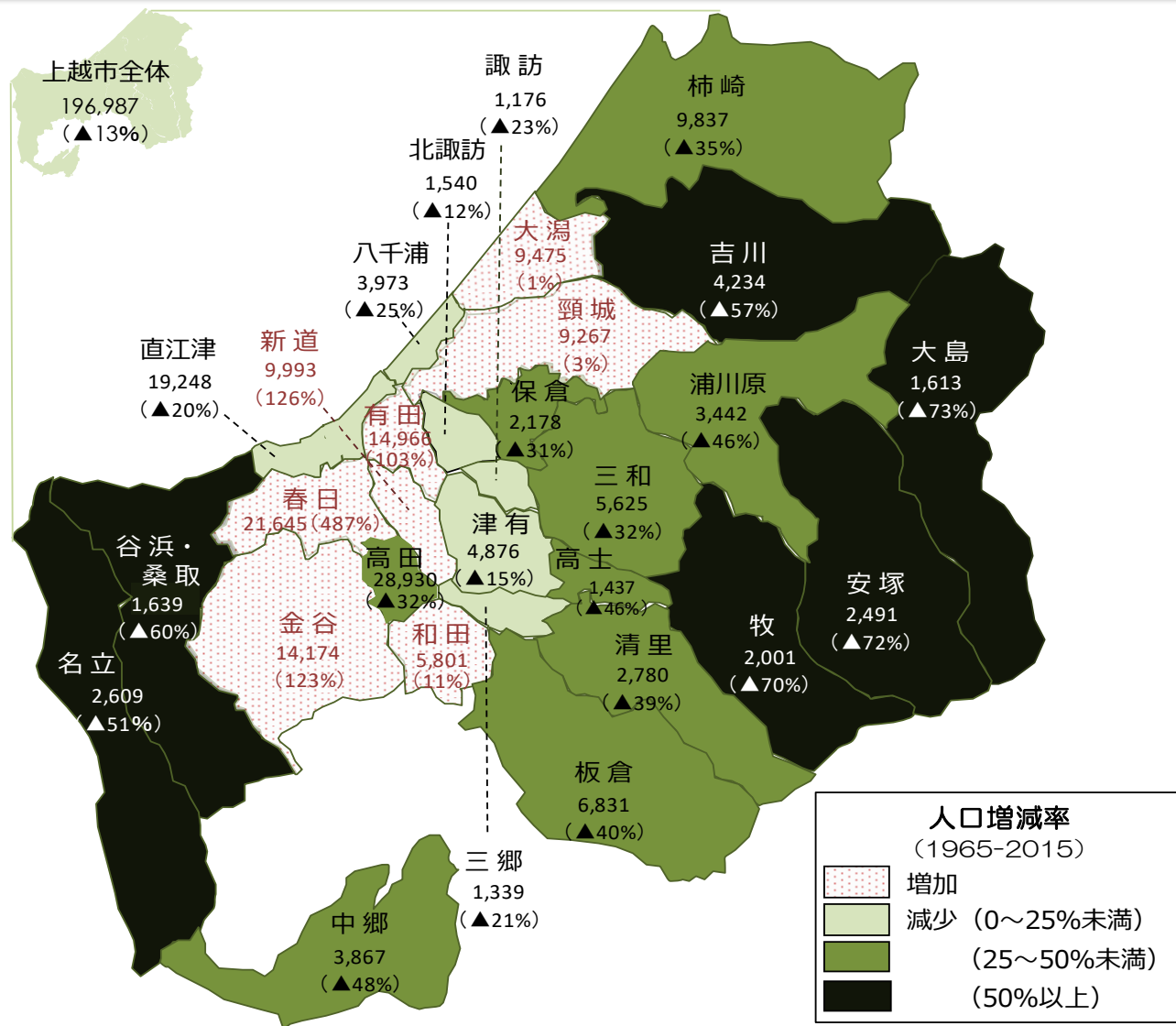
1 人口と年齢構成

上越市・全国の総人口の推移 (1891 - 2045 推計)



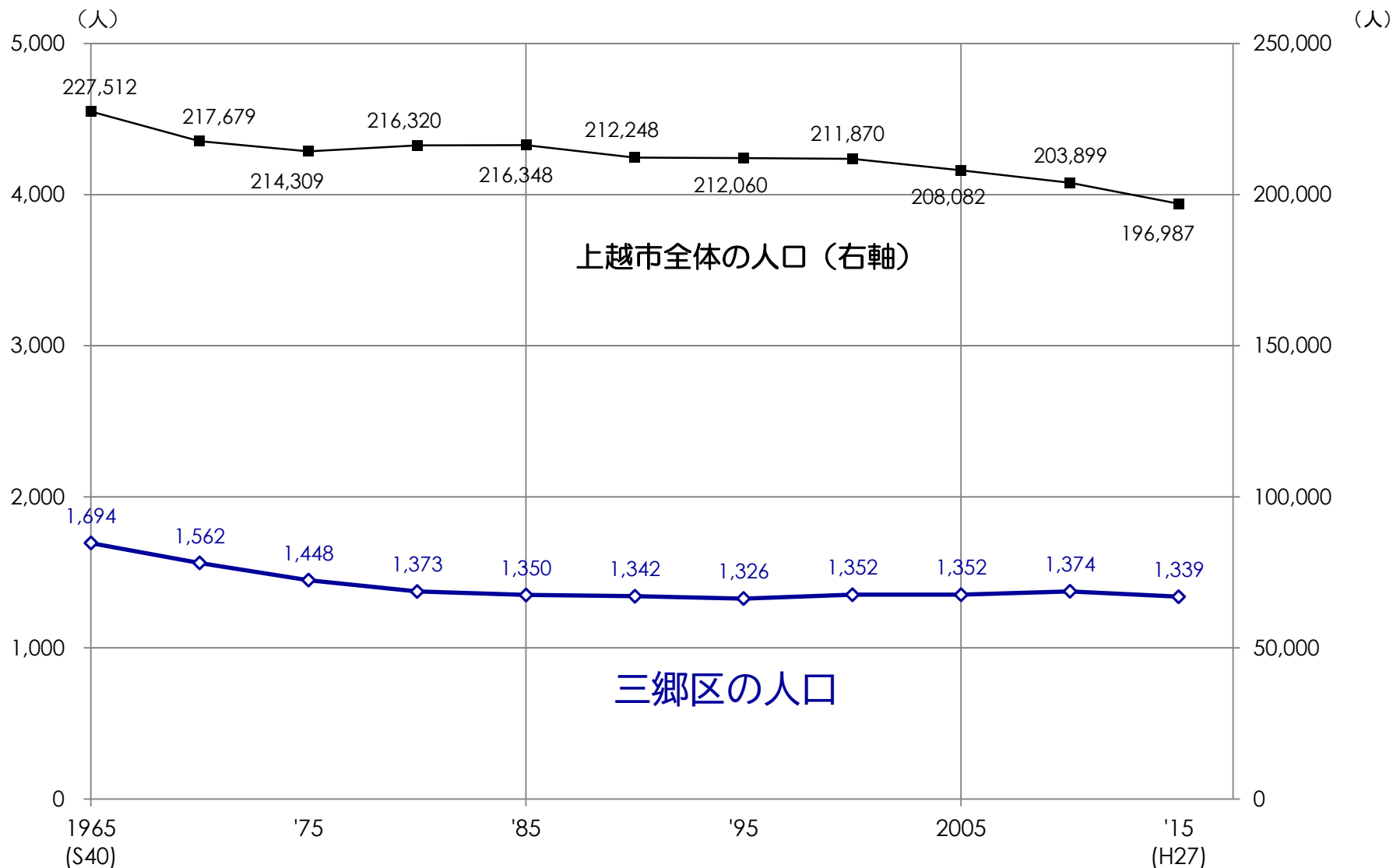
- 👉 全国の人口は過去120年間で3倍に増加。これから急速に人口減少。
- 👉 上越市の人口は、戦後ゆるやかに減少。一気に減少が進む可能性あり。

市内各区の50年間の人口増減（1965 - 2015）



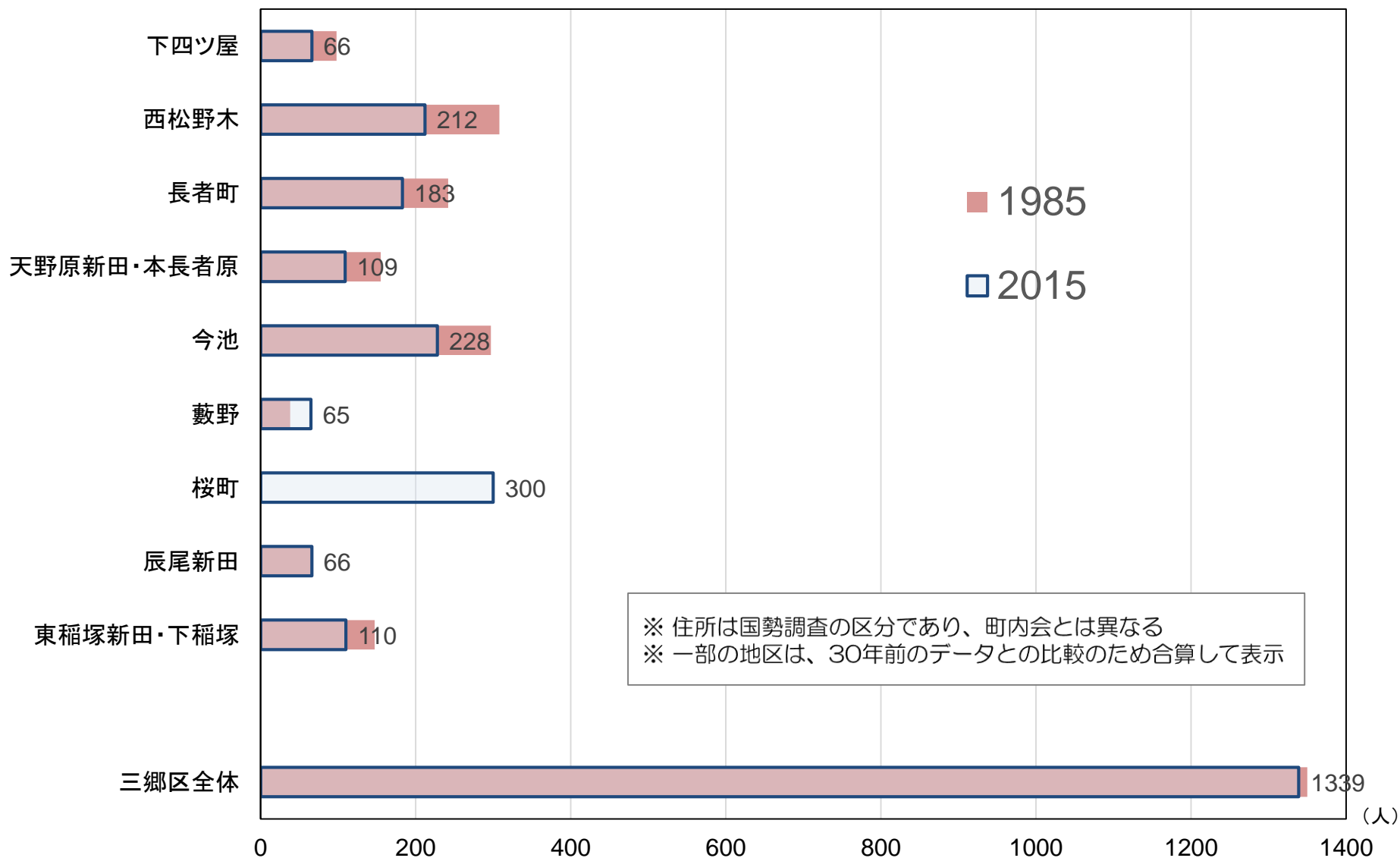
中山間地・中心市街地は大きく人口減少。
特に、中山間地は顕著である一方、郊外では大幅な人口の増加あり。

三郷区の人口（1965 - 2015）

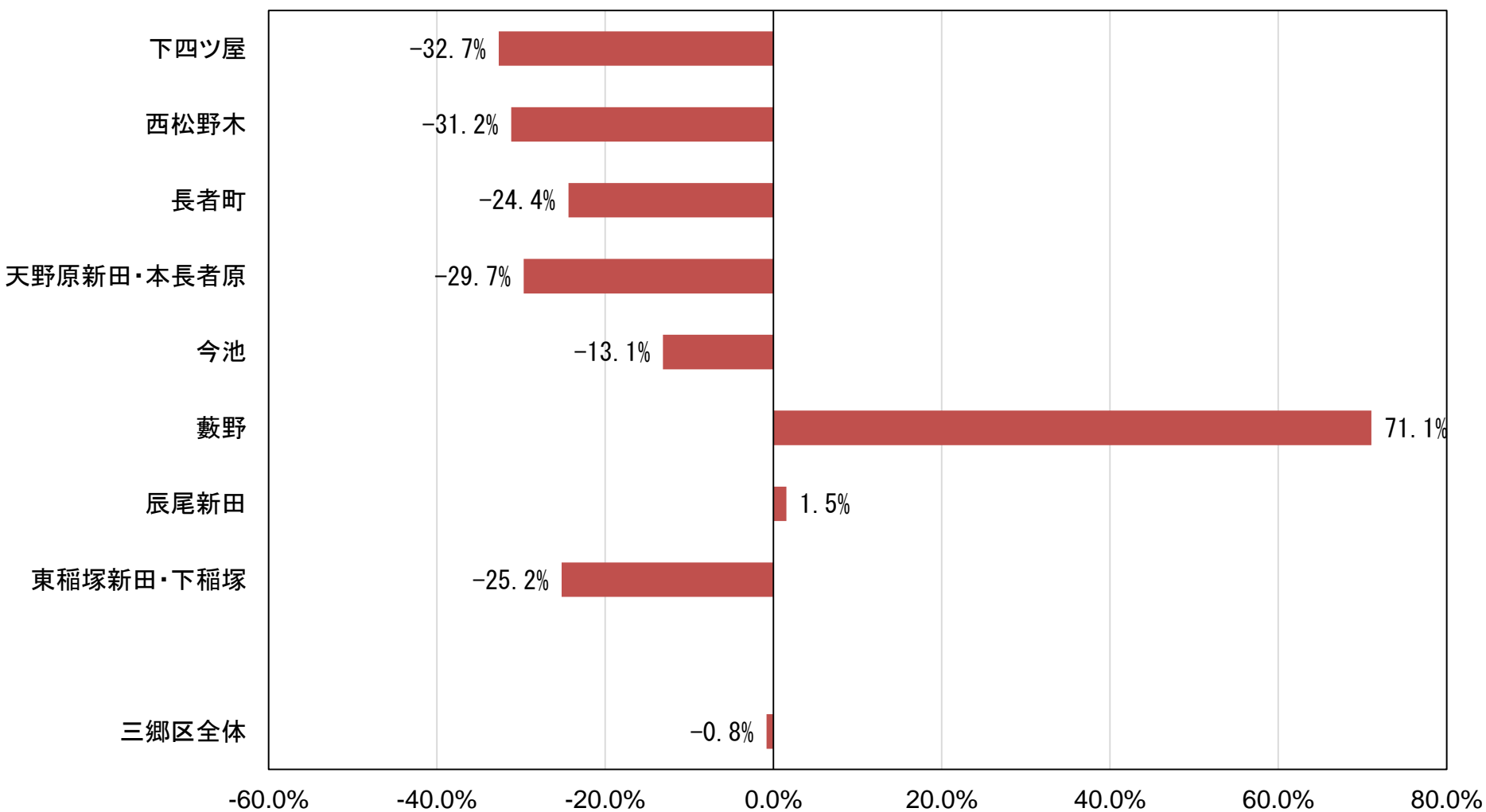


三郷区の人口は、80年頃まで減少が続いた後は横ばいで推移。

三郷区住所別の人口（1985：2015）

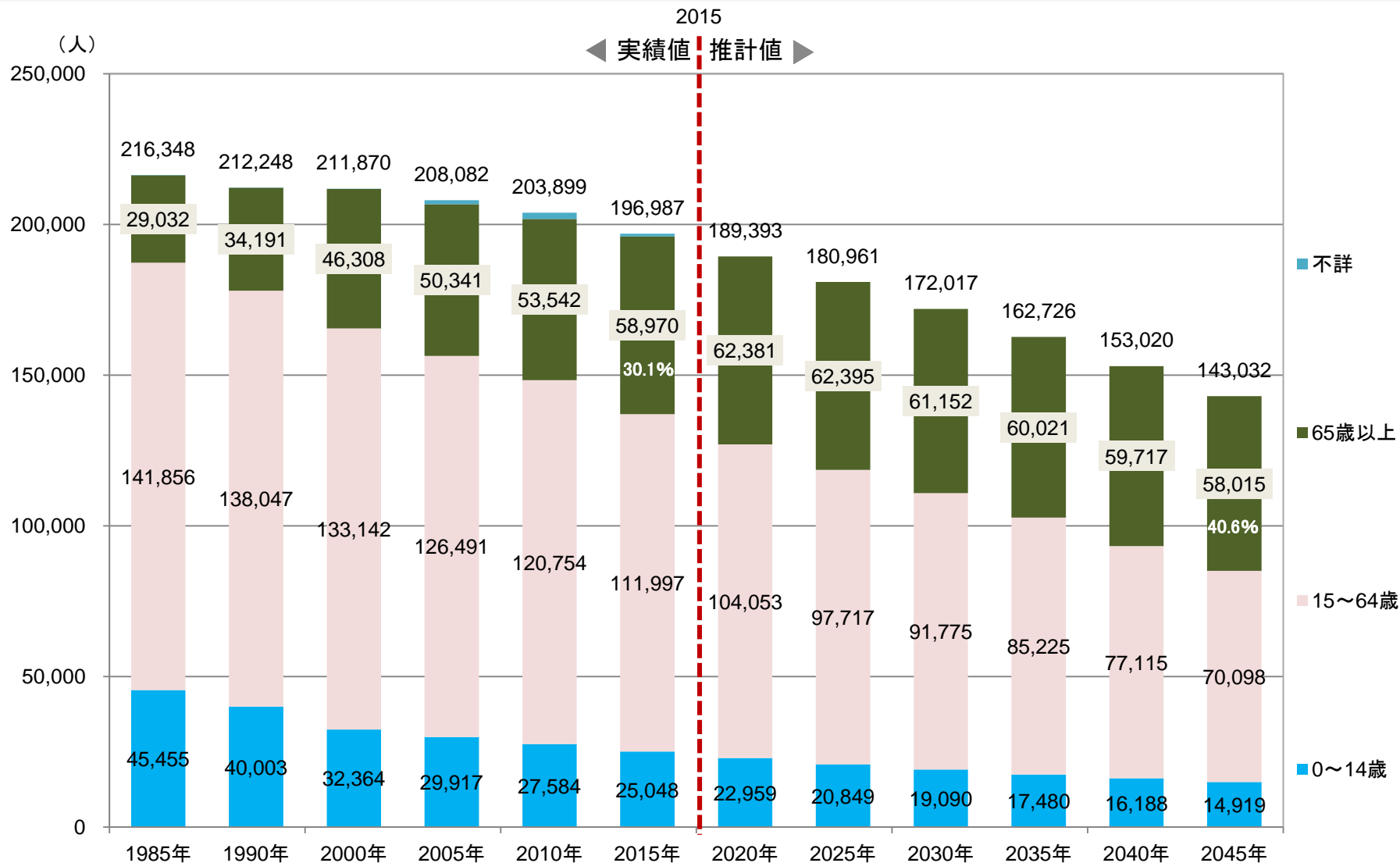


三郷区住所別の人口増減率（1985：2015）



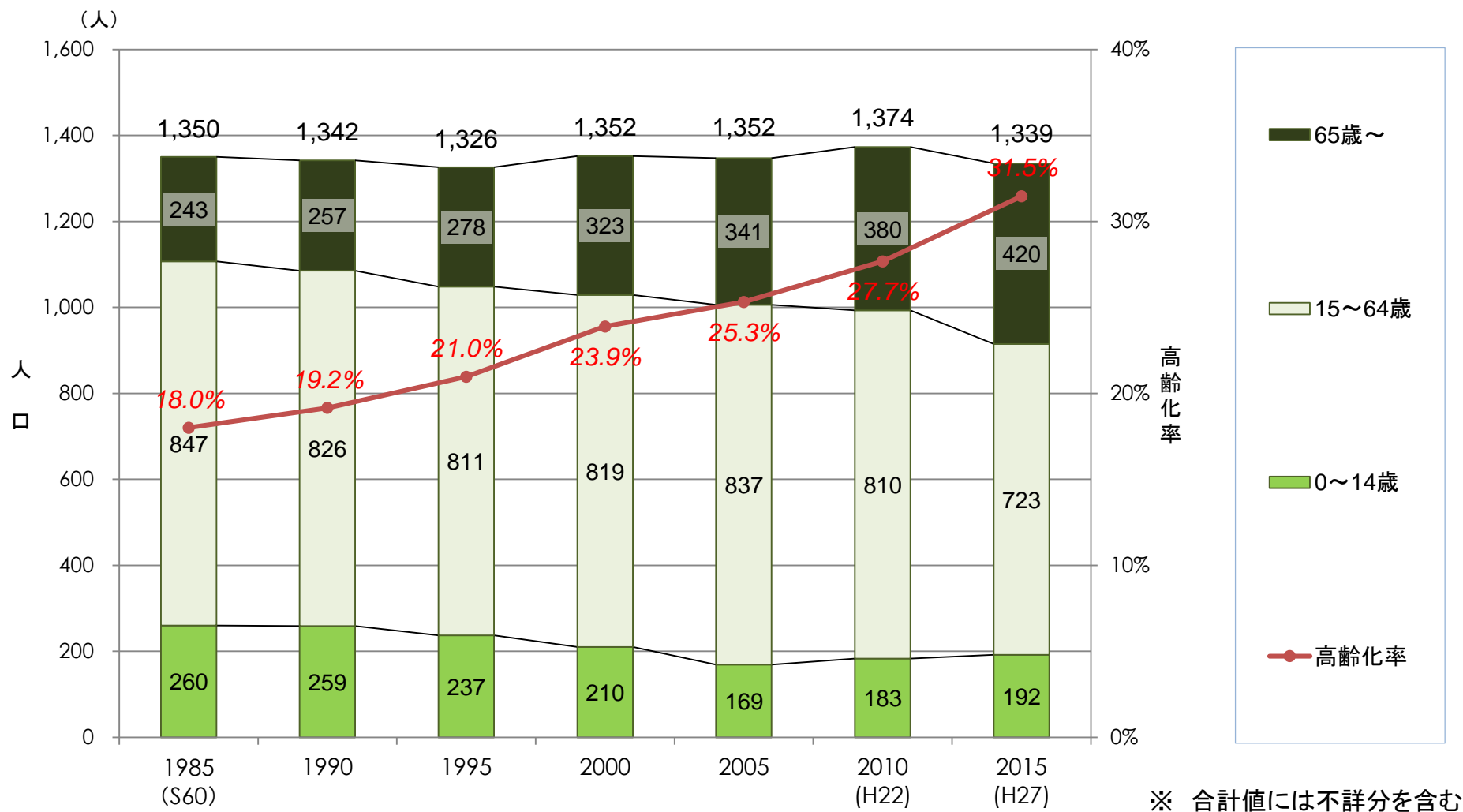
※ 桜町は純増のため除外

上越市の年齢3区分人口（1985 - 2045 推計）



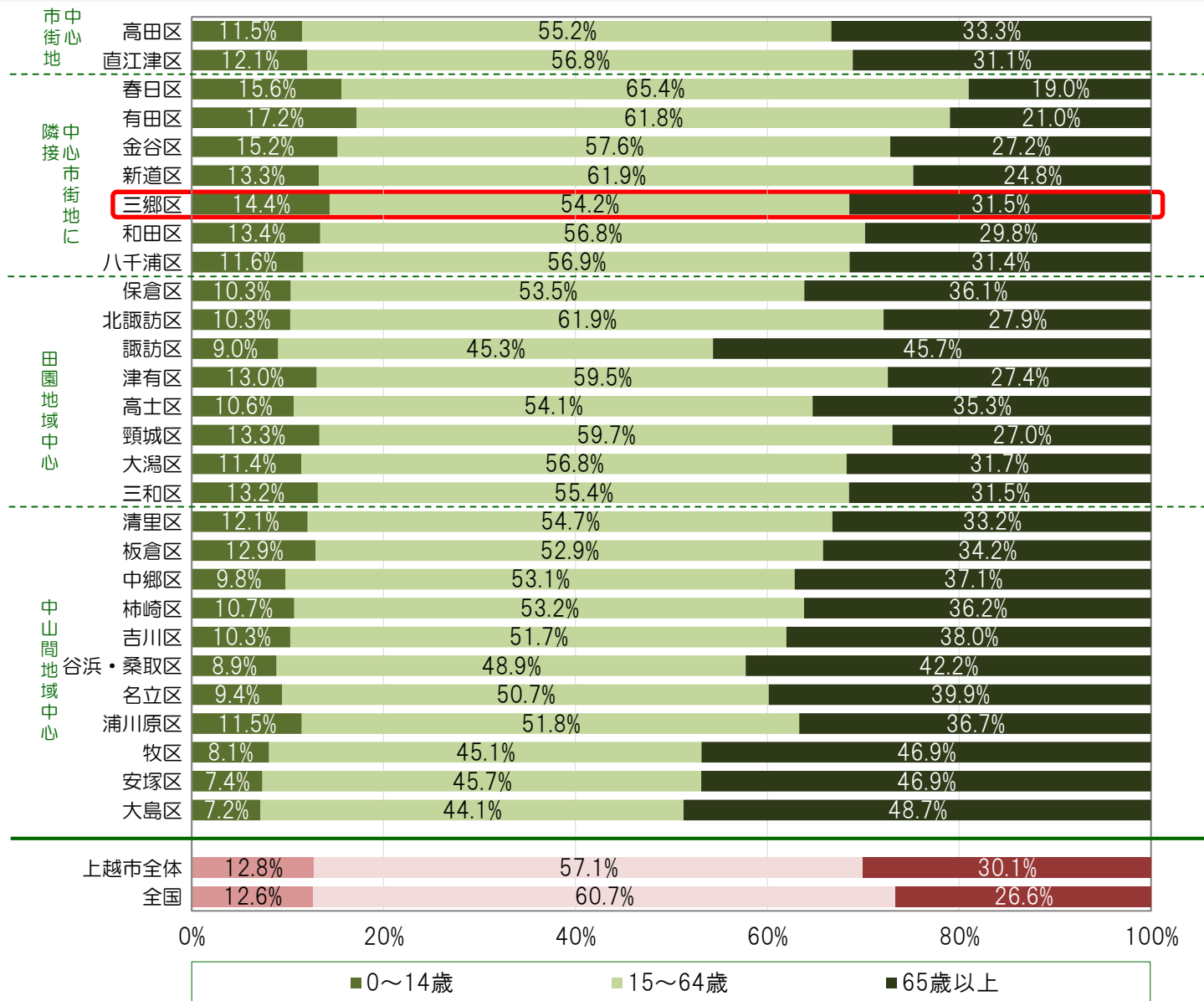
これまでもこれからも、少子化・高齢化が続く。
高齢者数は2025年がピークの見込みだが、高齢化率はその後も上昇。

三郷区の年齢3区分人口（1985 - 2015）



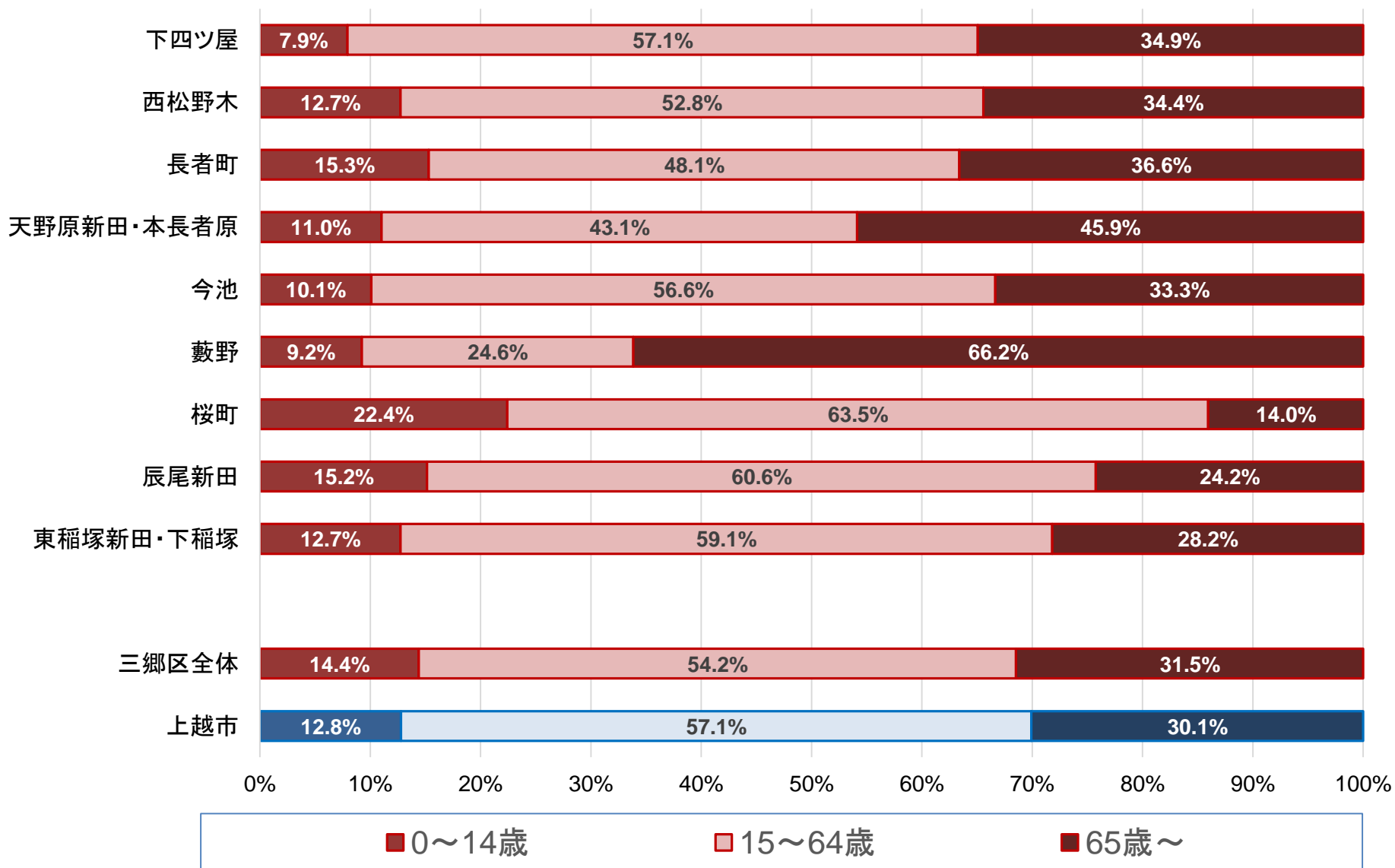
☞ 三郷区の人口は、この30年間、横ばいで推移している。
 高齢者数・高齢化率は増加を続けており、高齢化率は、上越市全体より若干高い。
 一方で少子化時代の中にあって、子どもの数は横ばいで推移している。

市内各区の年齢構成（2015）



人口減少の大きい中山間地域ほど、高齢化が進んでいる。

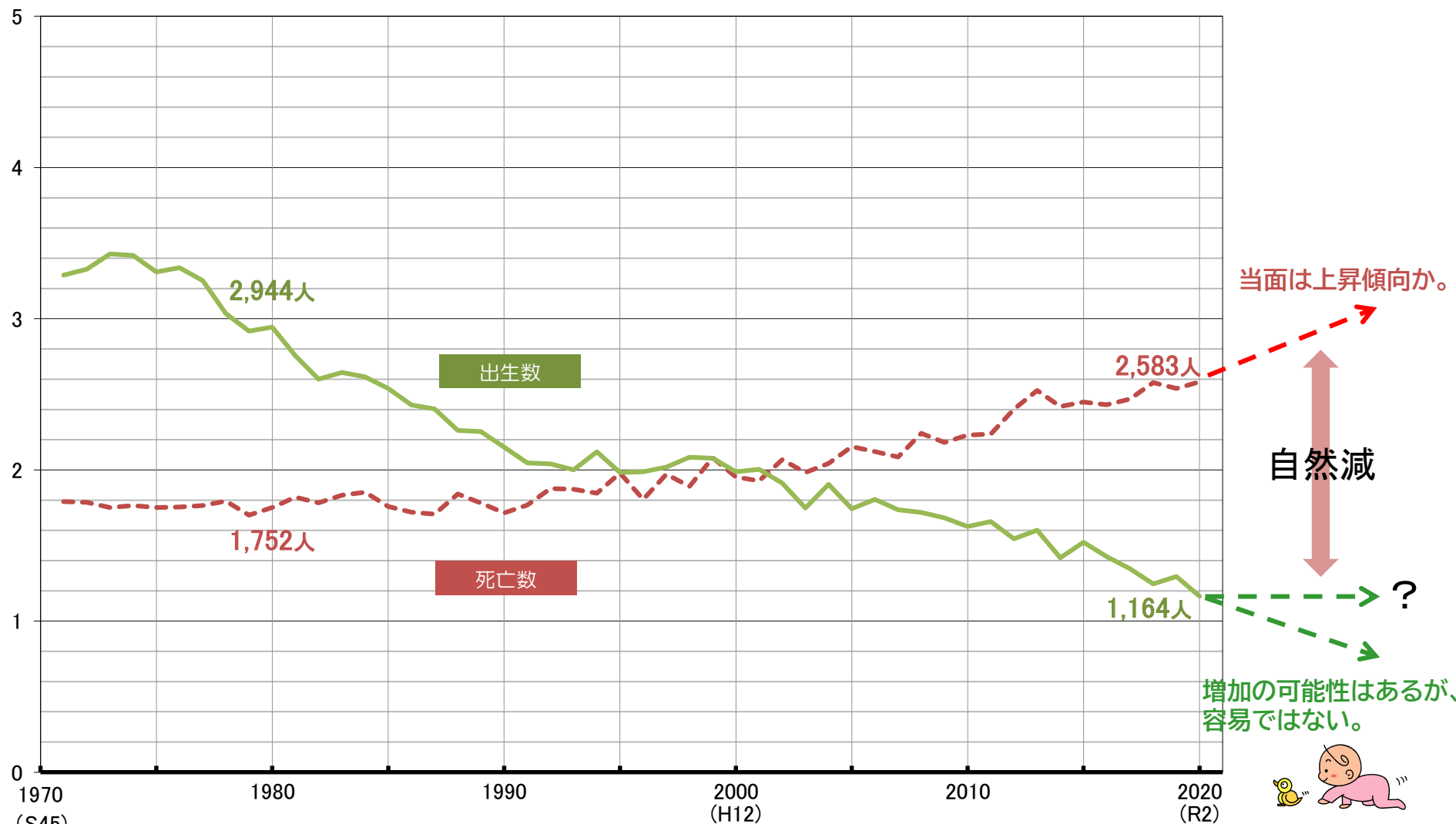
三郷区住所別の年齢構成（2015）



※ 高齢者福祉施設や寮などが立地する住所地は、傾向が際立つ場合がある。

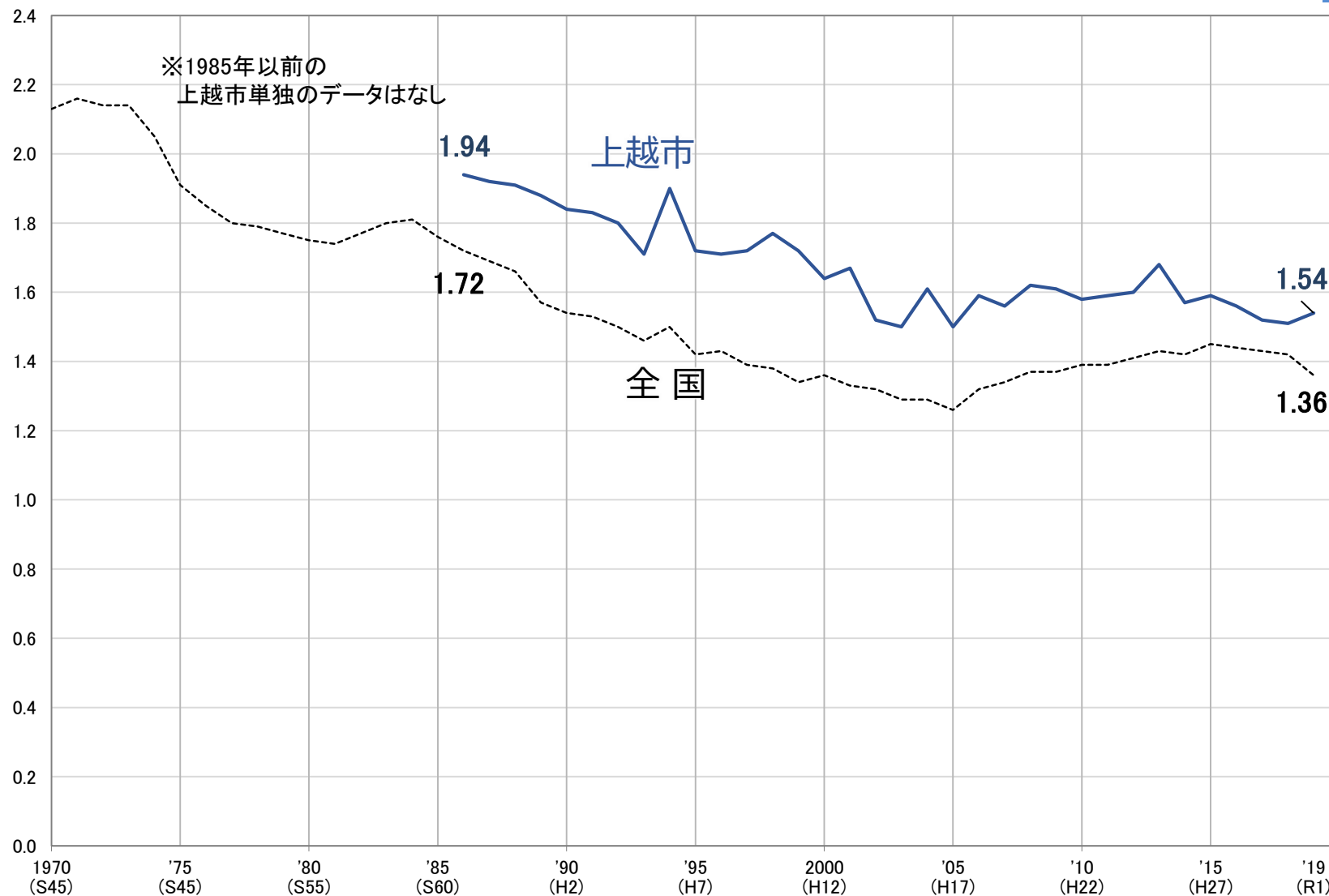
2 人口動態（出生・死亡、転入・転出）

(千人)



出生数は約50年間で6割減、2002年からは継続して自然減。両者の差(自然減)は、拡大傾向にある。

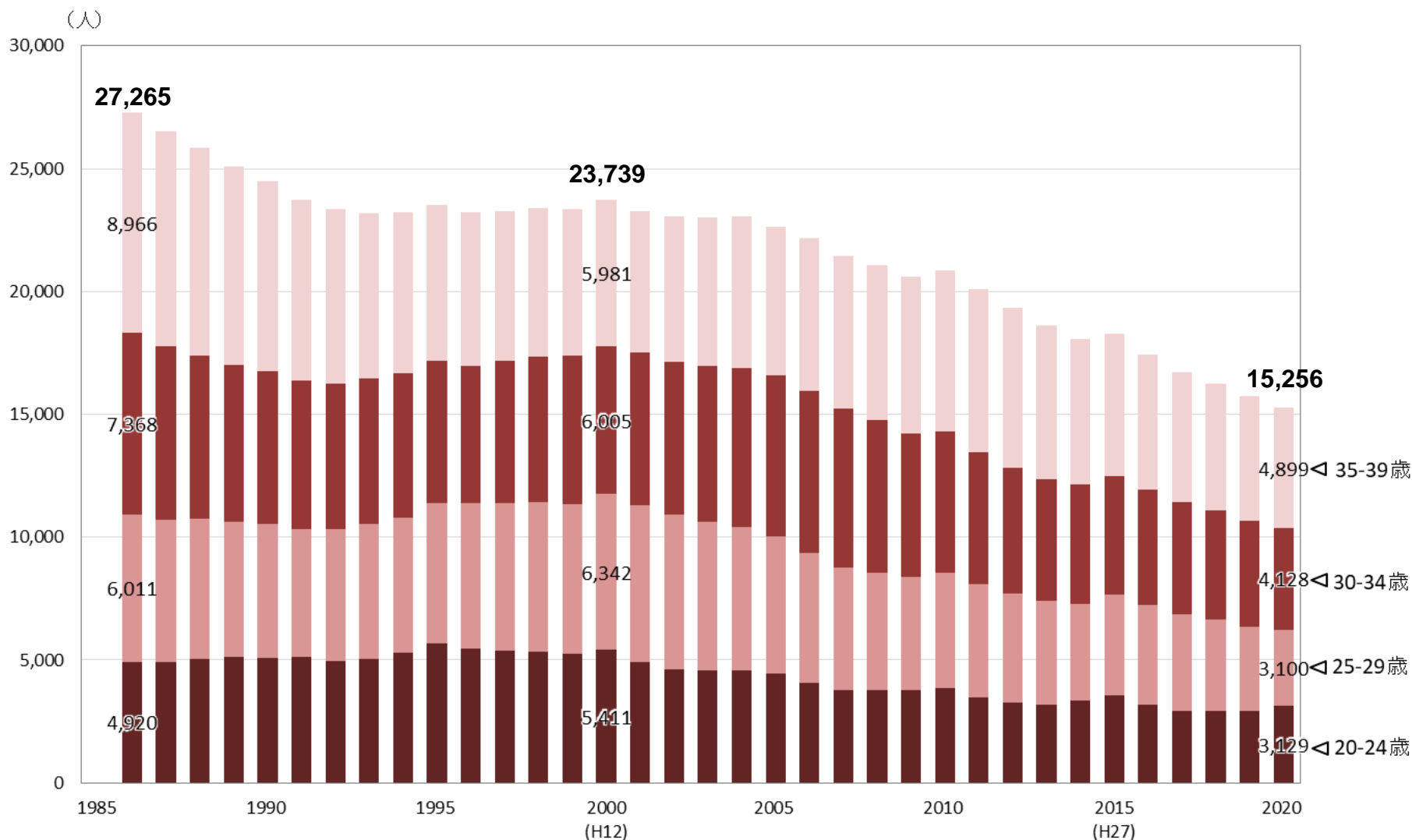




近年は、おおむね横ばいで推移。

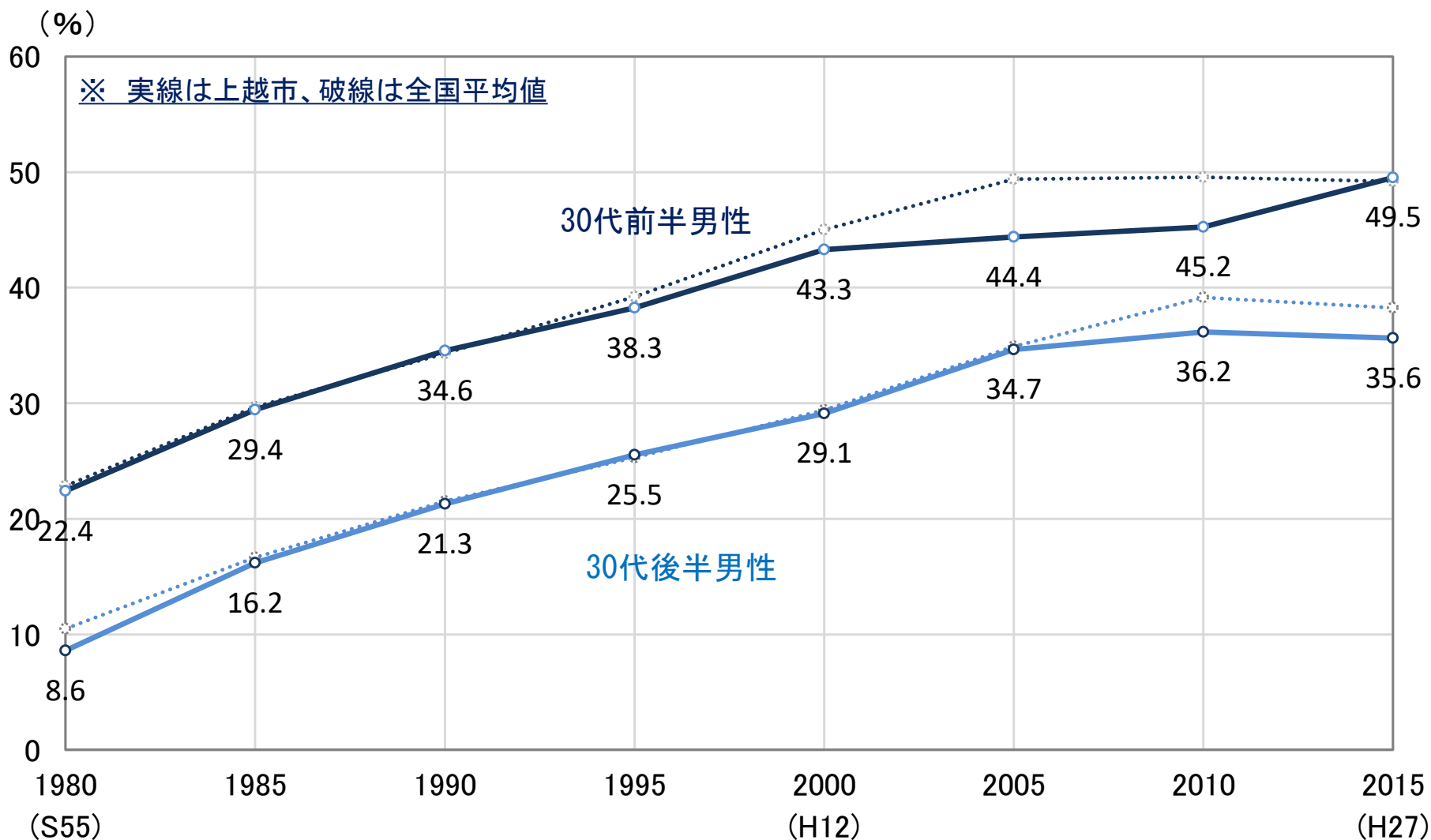
全国平均よりは高いものの、人口の長期的安定に必要な2.07を下回る状況が続く。

上越市の20・30代女性人口の推移（1986 - 2020）



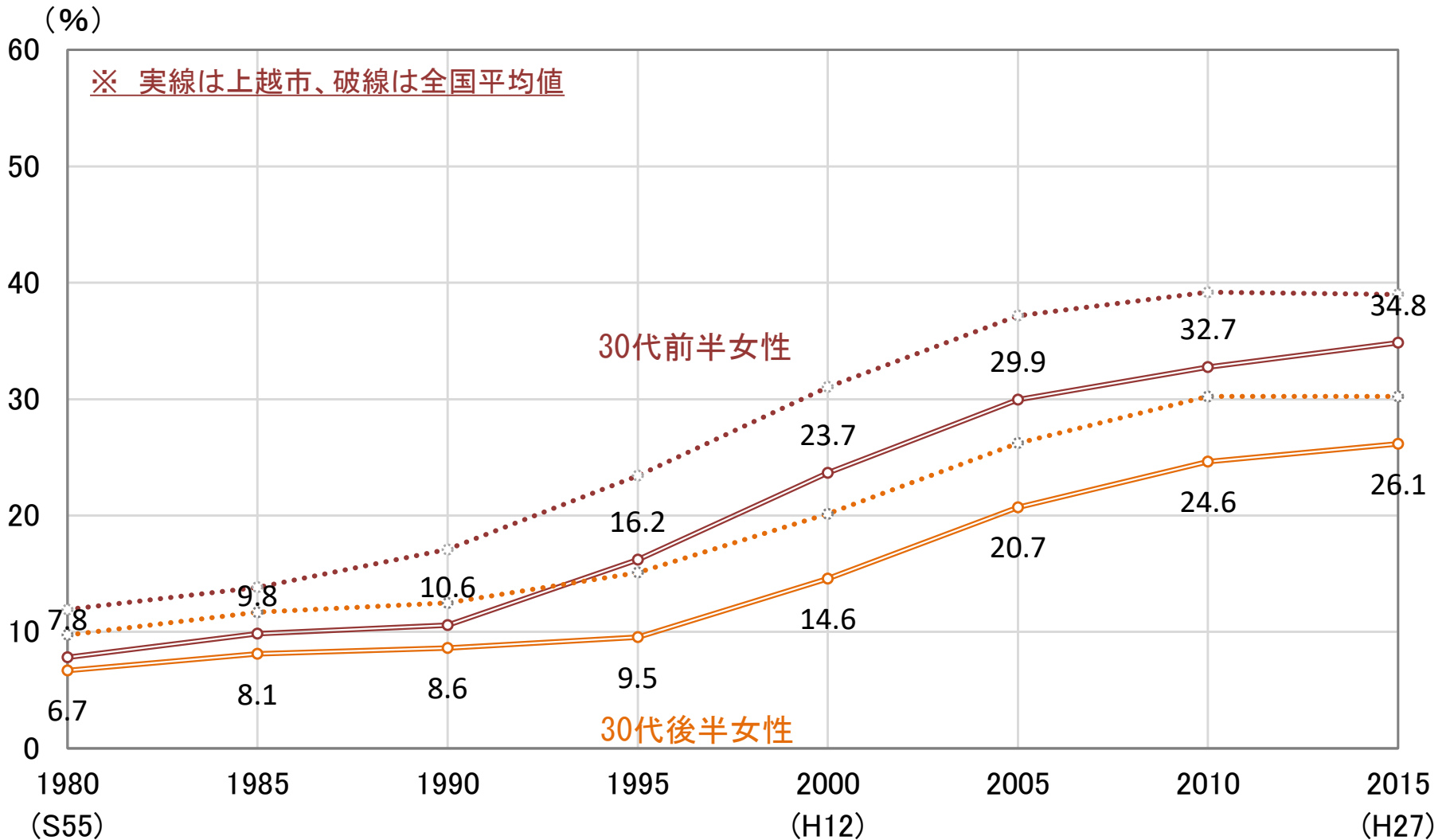
20・30代の女性人口は、過去30年間で3割以上の減。

要因は、1970年代から続く少子化に加え、市外に転出する若い女性が多いこと。



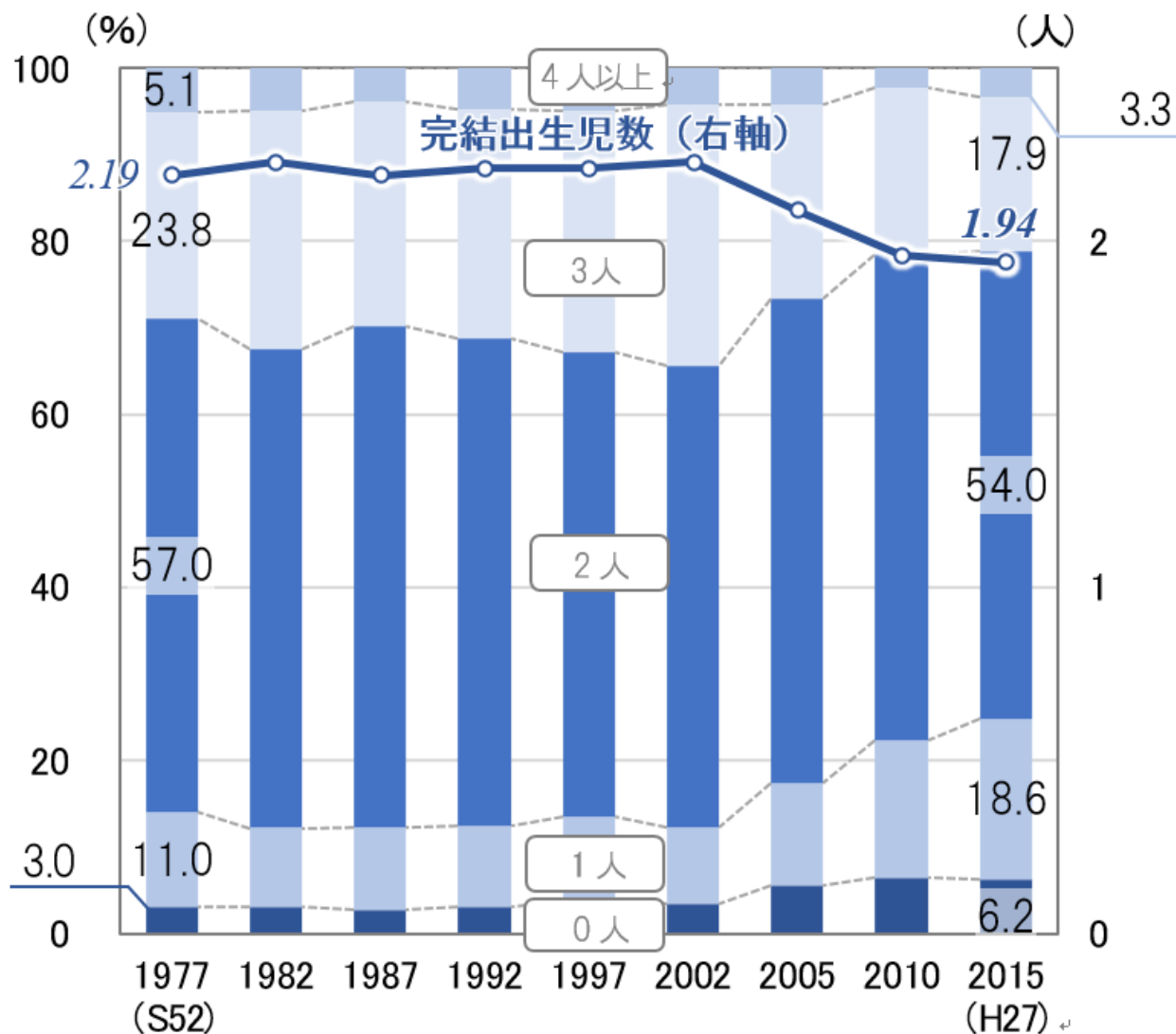
☞ 右肩上がりに増加傾向。
横ばい傾向の兆しはあるが、独身者の高齢化は進行。

14 30代の未婚率の推移：女性（1980－2015）

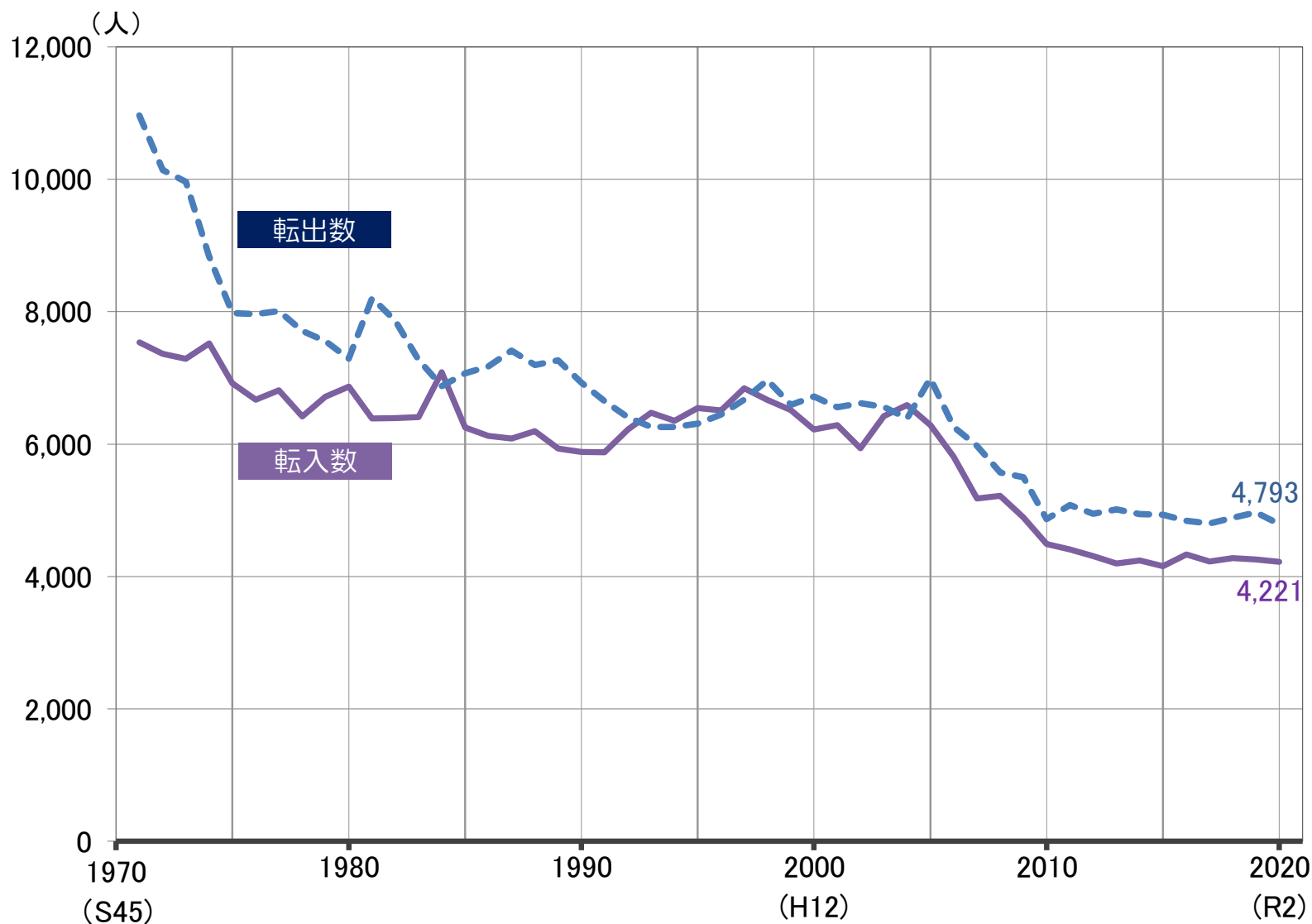


☞ 右肩上がりに増加傾向。全国平均に比べて若干低い。
出生率低下との関係あり。加えて、独身者の高齢化も進行。

全国の夫婦の出産状況の変化（1977 - 2015）



右肩上がりに増加傾向。全国平均に比べて若干低い。
出生率低下との関係あり。加えて、独身者の高齢化も進行。

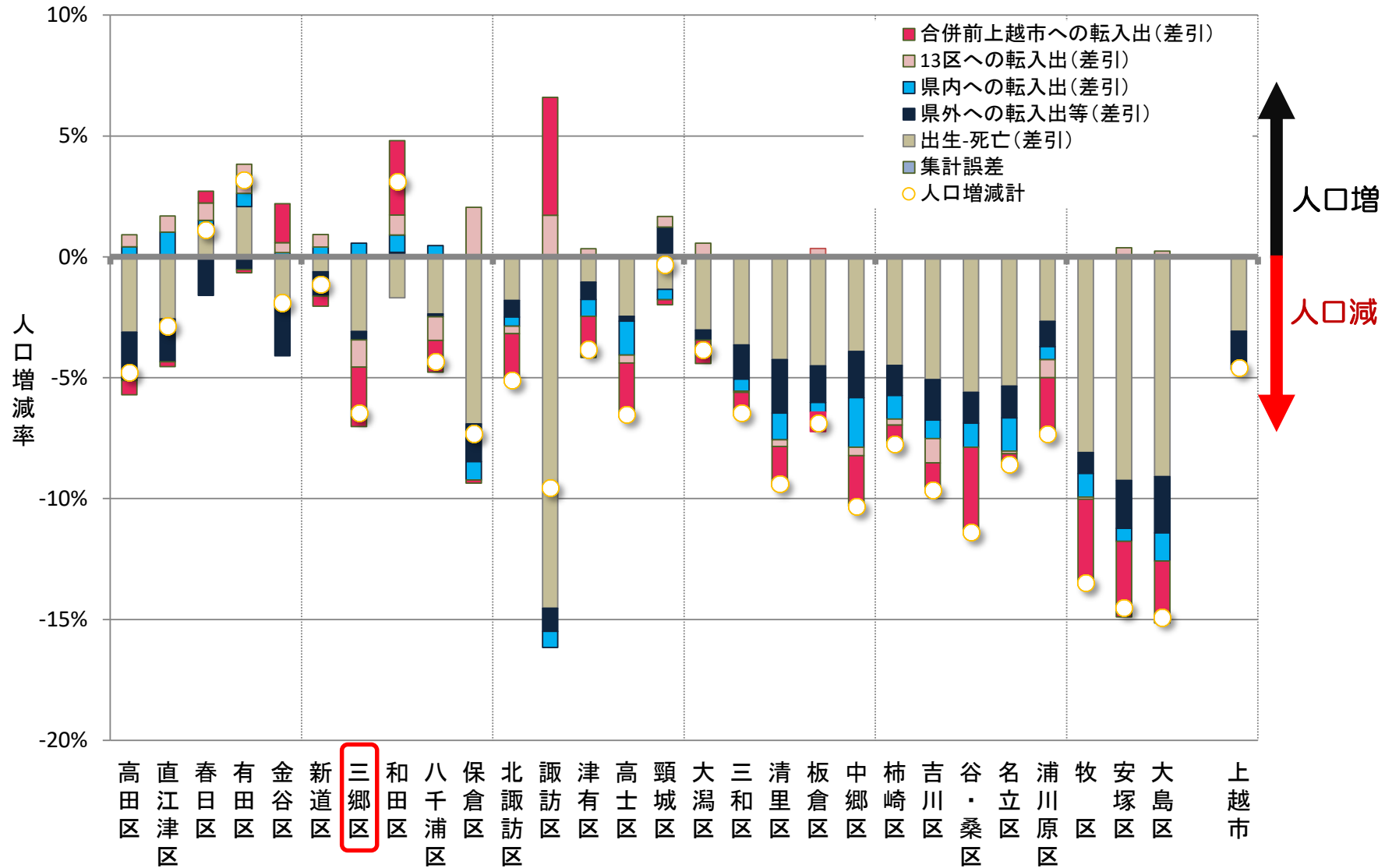


☞ 転入数が転出数を上回るのは、一時的な経済状況の変化によるもの。
若年層の人口移動に大きく依存。

17 市内各区別の人口動態 (2015 - 2020)

(2015 - 2020)

住民基本台帳



ほとんどの区で自然減と県外への転出超過。市内移動の影響大。

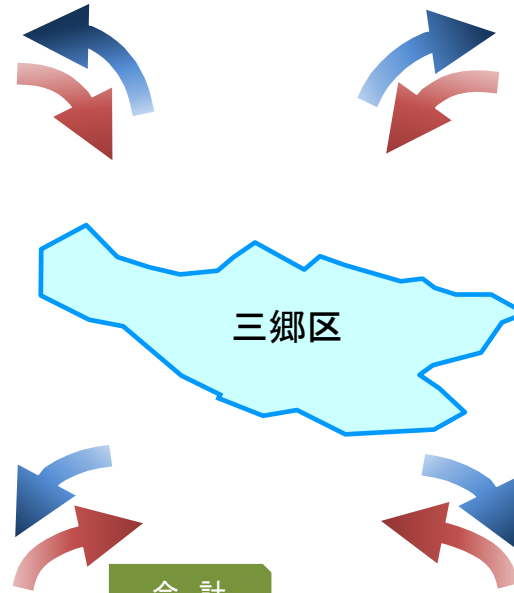
三郷区を中心とする人口の動き(2005-2010)

住民基本台帳

	転入	転出	差引
[県外]	47	57	▲ 10
北海道・東北	1	3	▲ 2
関東	25	39	▲ 14
長野県	4	4	0
中部(長野以外)	1	4	▲ 3
西日本	12	5	7
国外	4	2	2

[合併前上越]	178	131	47
高田	67	33	34
新道	19	16	3
金谷	19	12	7
諏訪	2	2	0
和田	9	9	0
津有	12	9	3
春日	21	15	6
三郷	16	16	0
高土	4	3	1
直江津	5	9	▲ 4
有田	3	5	▲ 2
八千浦	0	1	▲ 1
保倉	0	0	0
北諏訪	0	0	0
谷浜・桑取	1	1	0

※ 転入・転出の値には職権記載・消除分を含む。



合計	
転入	302
転出	257
不詳	0
社会動態	45

(転入・転出先不明分を含む)

参考	
出生	79
死亡	87
自然動態	▲ 8

	転入	転出	差引
[県内]	40	46	▲ 6
下越(新潟市等)	8	20	▲ 12
三条・燕圏	2	1	1
長岡圏	7	4	3
柏崎圏	1	3	▲ 2
魚沼・十日町圏	1	1	0
妙高市	19	14	5
糸魚川市	2	3	▲ 1
佐渡市	0	0	0

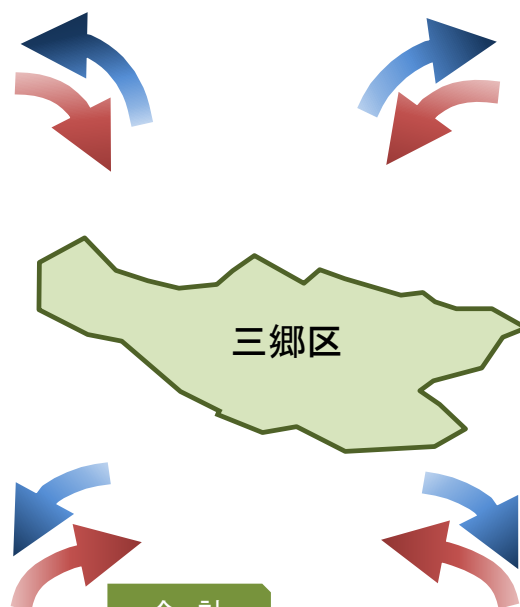
[旧13町村]	34	22	12
安塚	0	0	0
浦川原	0	0	0
大島	1	0	1
牧	9	2	7
柿崎	5	2	3
大潟	0	2	▲ 2
頸城	5	6	▲ 1
吉川	0	0	0
中郷	0	4	▲ 4
板倉	8	1	7
清里	4	2	2
三和	1	3	▲ 2
名立	1	0	1

2005～2010年の動きとしては、高田からの転入超過が目立つ。マイナス要因は、県外、県内の市町村(主に新潟市)との転入出など。

	転入	転出	差引
[県外]	33	44	▲ 11
北海道・東北	0	1	▲ 1
関東	18	27	▲ 9
長野県	1	2	▲ 1
中部(長野以外)	0	4	▲ 4
西日本	6	3	▲ 3
国外	8	7	▲ 1

[合併前上越]	109	161	▲ 52
高田	24	39	▲ 15
新道	17	12	▲ 5
金谷	4	14	▲ 10
諏訪	0	1	▲ 1
和田	9	18	▲ 9
津有	18	11	▲ 7
春日	8	23	▲ 15
三郷	19	19	0
高士	0	1	▲ 1
直江津	5	10	▲ 5
有田	3	12	▲ 9
八千浦	2	1	▲ 1
保倉	0	0	0
北諏訪	0	0	0
谷浜・桑取	0	0	0

※ 転入・転出の値には職権記載・消除分を含む。



合計	
転入	201
転出	275
集計誤差	0
社会動態	▲ 74

(転入・転出先不明分を含む)

参考	
出生	35
死亡	95
自然動態	▲ 60

	転入	転出	差引
[県内]	49	40	▲ 9
下越(新潟市等)	15	14	▲ 1
三条・燕圈	1	0	▲ 1
長岡圏	1	6	▲ 5
柏崎圏	2	2	0
魚沼・十日町圏	1	1	0
妙高市	27	14	▲ 13
糸魚川市	2	2	0
佐渡市	0	1	▲ 1

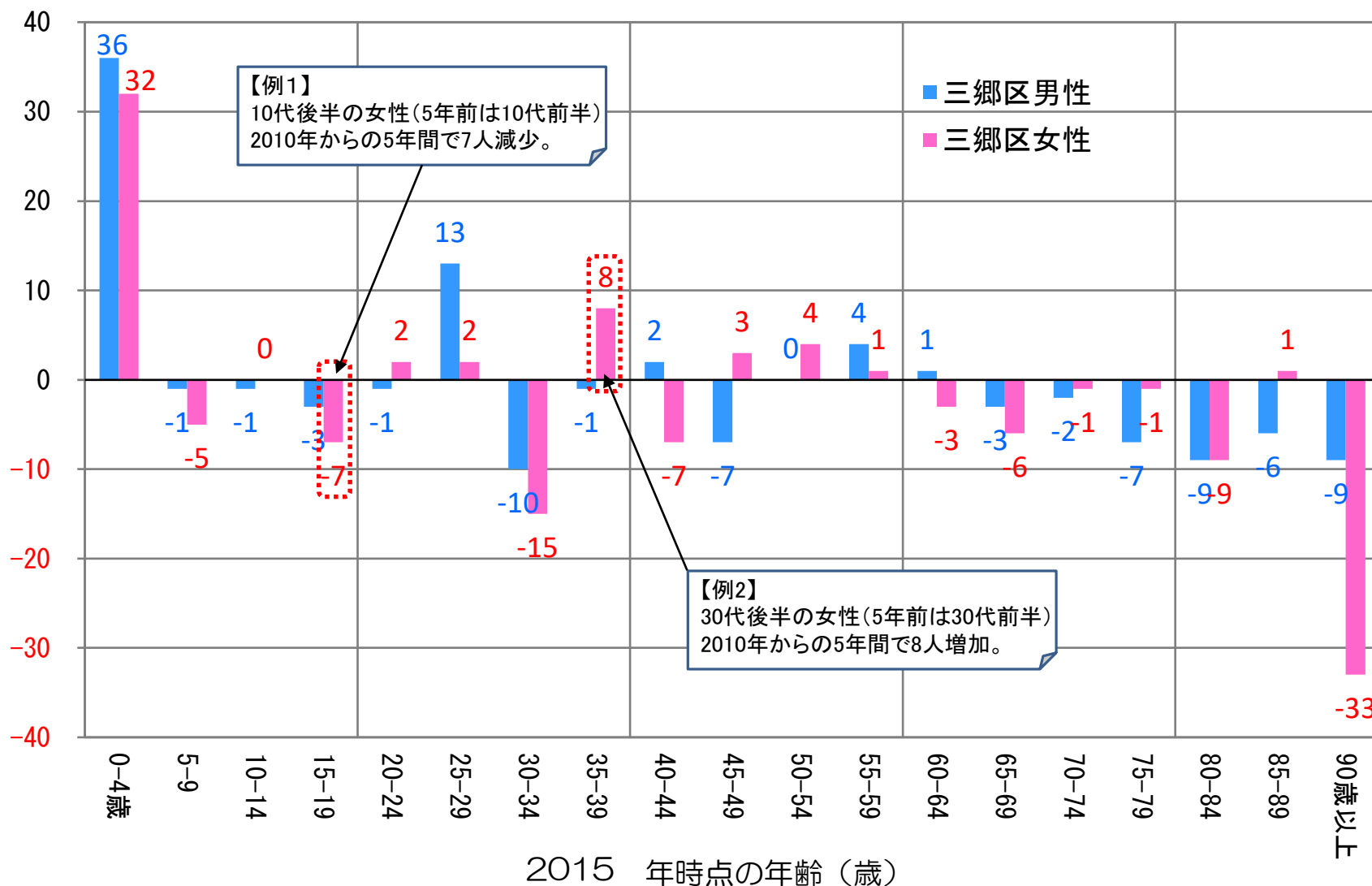
[旧13町村]	10	27	▲ 17
安塚	0	1	▲ 1
浦川原	0	0	0
大島	0	0	0
牧	2	3	▲ 1
柿崎	0	0	0
大潟	0	1	▲ 1
頸城	1	3	▲ 2
吉川	0	0	0
中郷	0	0	0
板倉	4	7	▲ 3
清里	1	5	▲ 4
三和	2	7	▲ 5
名立	0	0	0



2005-2010に比べると、各区(特に高田)からの転入が減少。三郷区から各区への転出が増加。

三郷区の年齢別人口増減率（2010 - 2015）

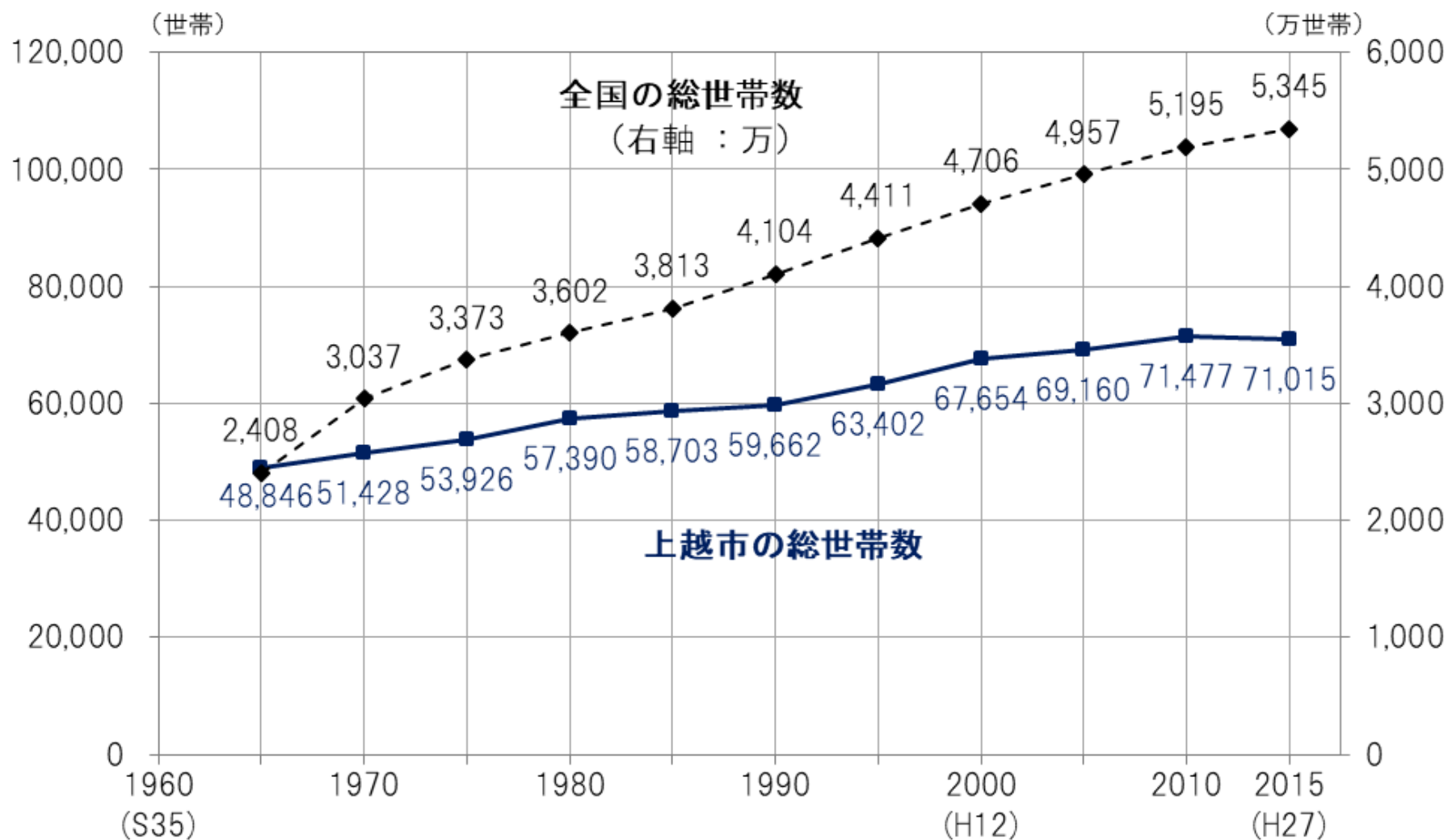
過去5年間のコホート人口増減数（人）



👉 15～24歳で転出超過。上越市全体でも同様の傾向あり。

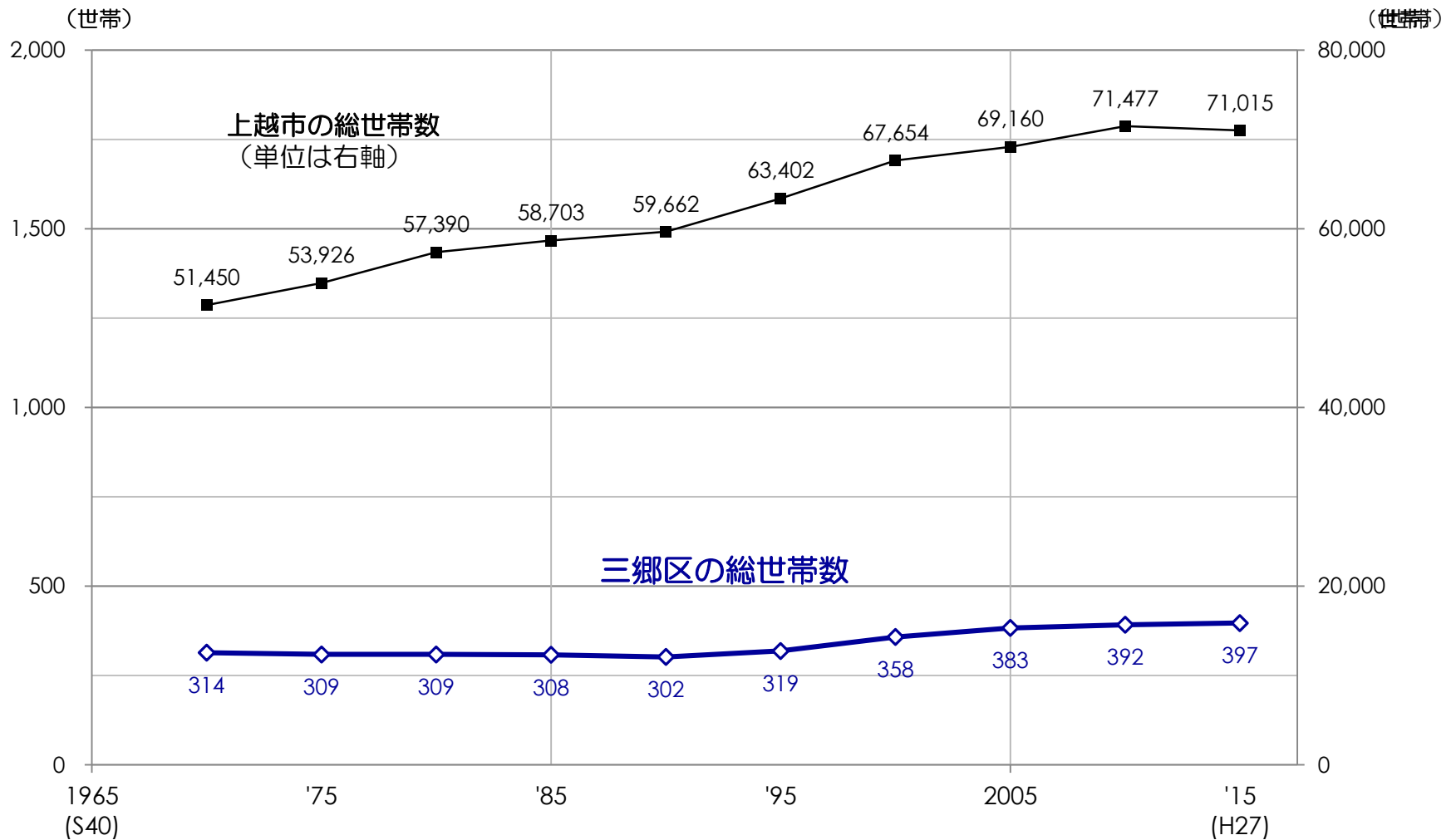
3 世帯数と世帯構成

上越市の総世帯数（1965－2015）



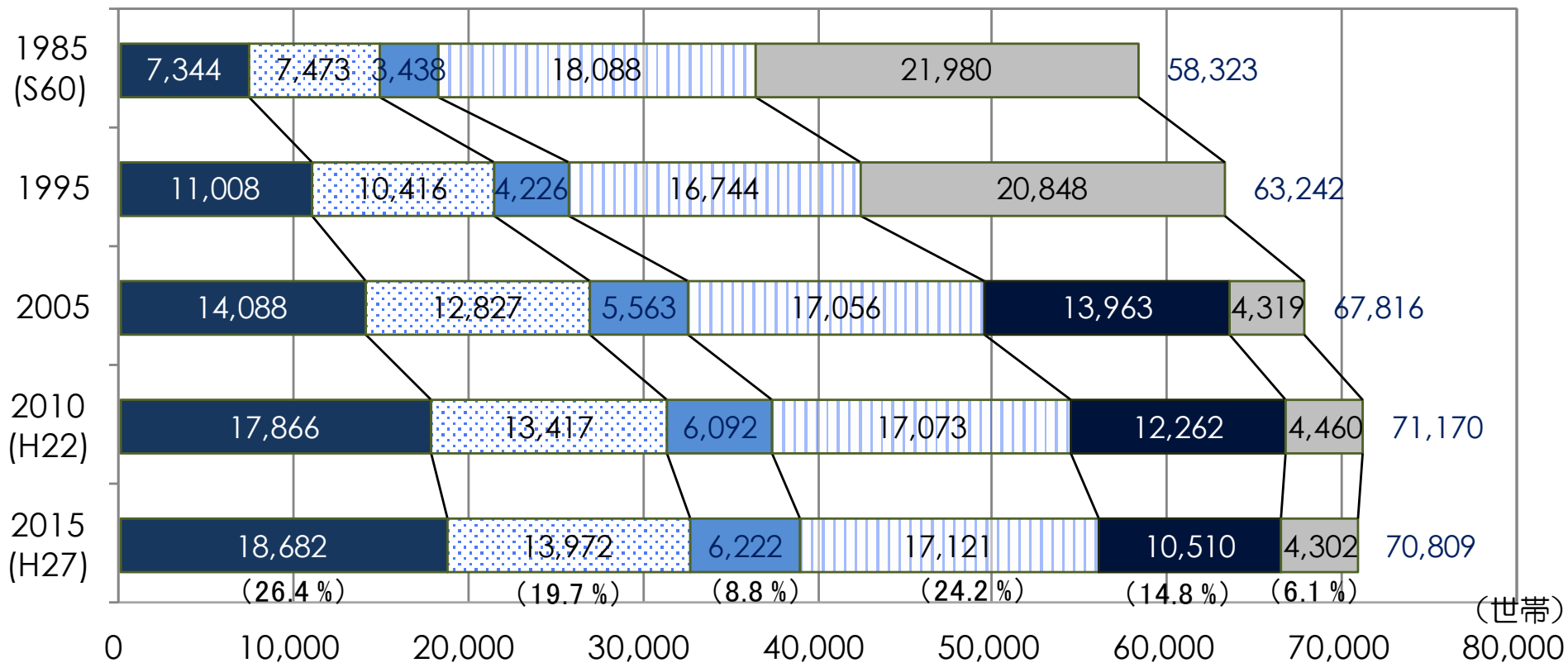
☞ 人口減少にあっても、世帯数は増加(要因は、核家族化や未婚化など)
2015年に初めて世帯数は減少に転じた。

三郷区の世帯数（1965 - 2015）



👉 ほぼ横ばいで推移していたが、1995年以降は増加傾向。

上越市の家族累計別世帯数の推移（1965 - 2015）



■単独世帯 ■夫婦のみ ■ひとり親と子ども ■夫婦と子ども ■3世代世帯 ■その他

※一般世帯数のみ（施設等の世帯は含まない）。1985、1995年の3世代世帯はその他に含まれる

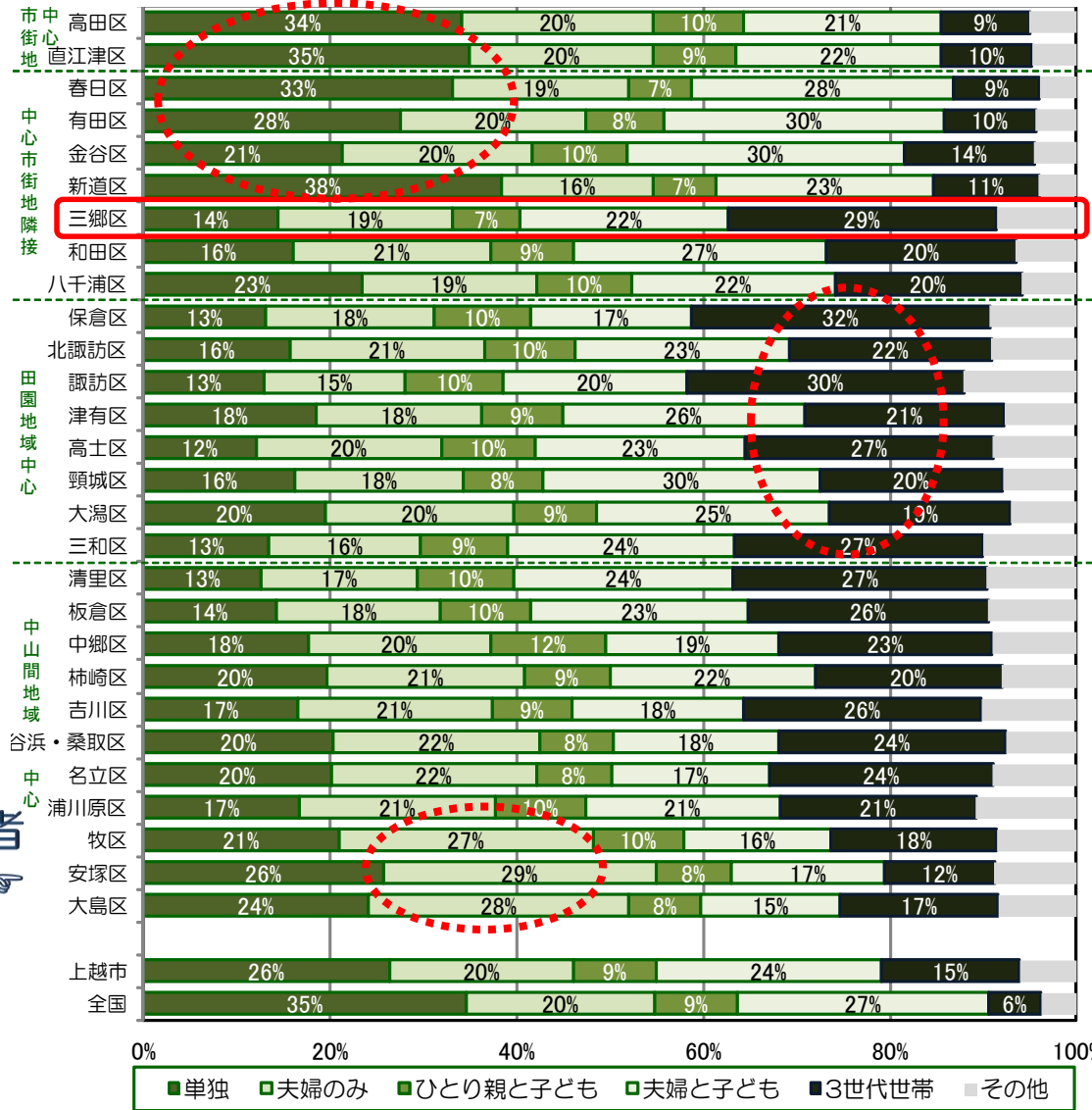
👉 30年前は、3世代世帯、夫婦と子ども世帯、その他がほぼ1/3ずつ。
現在は、単身世帯が1/4もあり、今後も増加の見込み。

24 市内各区別の世帯構成（2015）

郊外と中心市街地に多い単身世帯

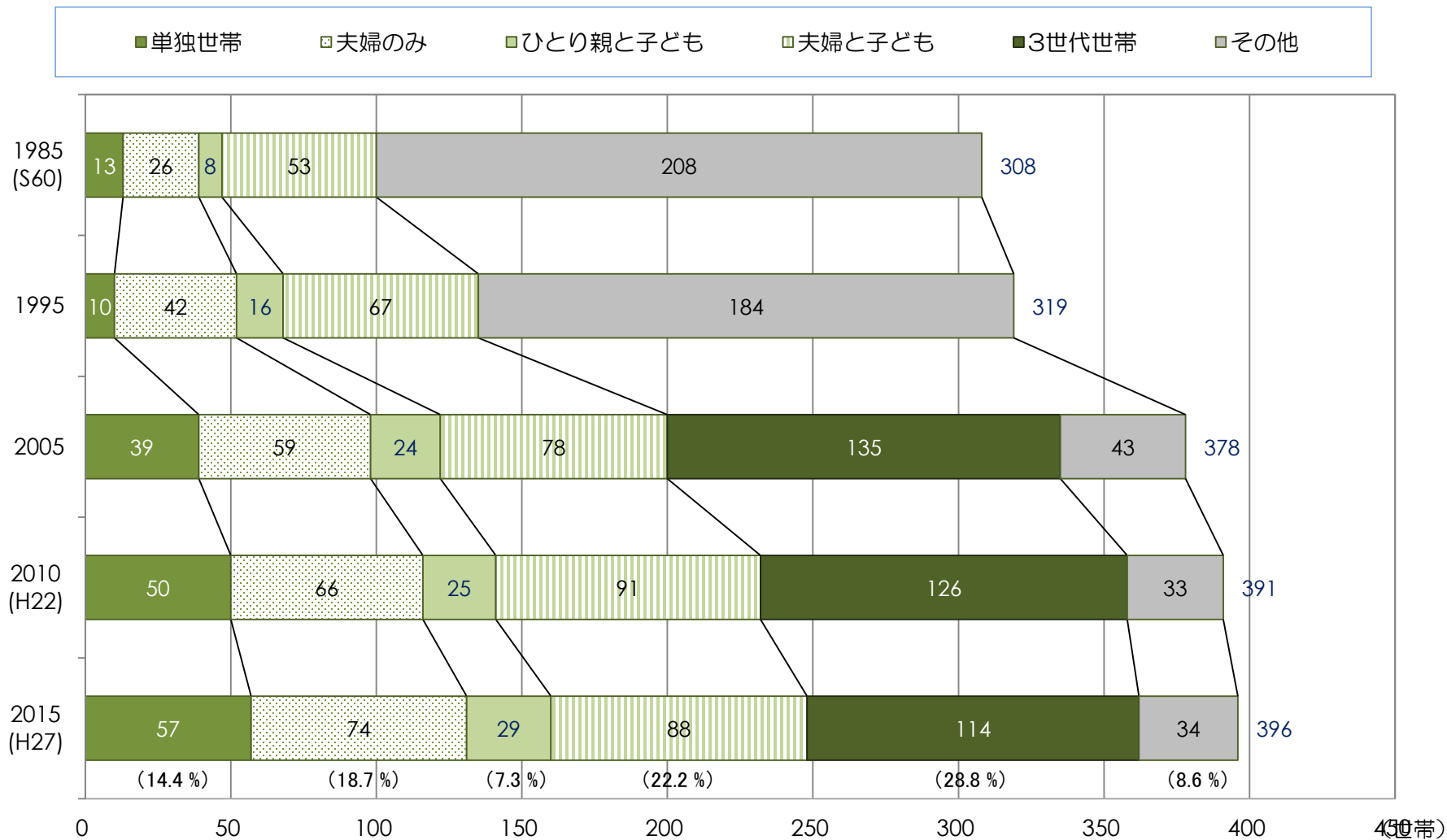
3世代世帯が多い

夫婦のみ世帯（高齢者のみ世帯）が多い



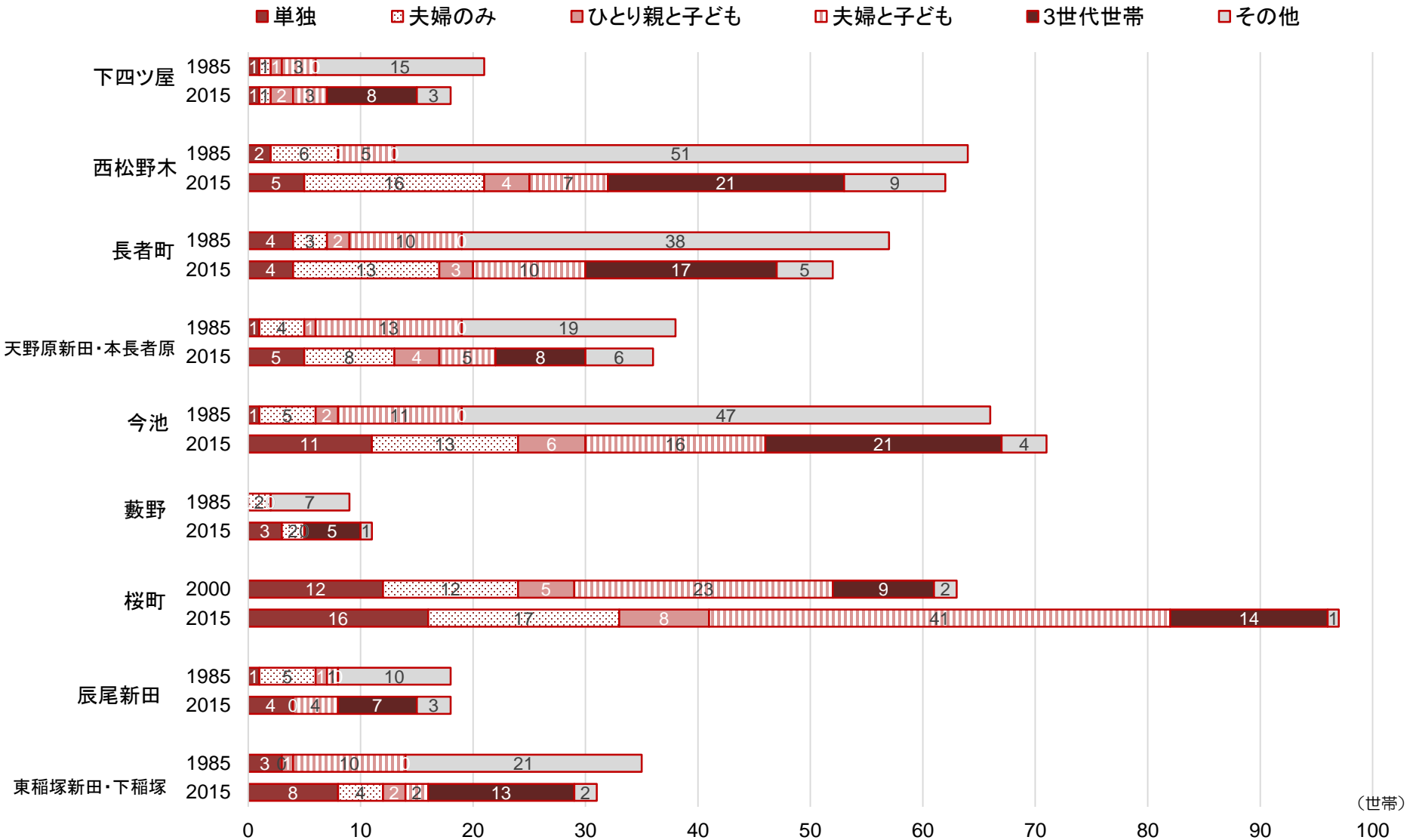
2.35	20%	27%
2.37	22%	22%
2.49	28%	14%
2.62	31%	14%
2.81	30%	19%
2.42	24%	14%
3.31	30%	17%
3.03	30%	16%
2.83	25%	22%
3.31	24%	20%
3.06	23%	16%
3.42	28%	20%
3.01	28%	16%
3.21	25%	21%
3.12	30%	16%
2.92	25%	22%
3.29	30%	18%
3.31	29%	19%
3.24	28%	22%
2.96	21%	23%
2.91	22%	25%
3.11	24%	27%
2.94	18%	32%
2.97	20%	29%
3.05	24%	25%
2.70	17%	38%
2.49	13%	39%
2.62	16%	40%
2.69	25%	21%
2.33	23%	18%
1世帯当たりの人数	18歳未満がいる世帯	65歳以上のみの世帯

三郷区の家族類型別世帯数の推移(1985 - 2015)



👉 単身世帯の増加と3世代世帯の減少が見られるものの、上越市全体の動きに比べて緩やか。

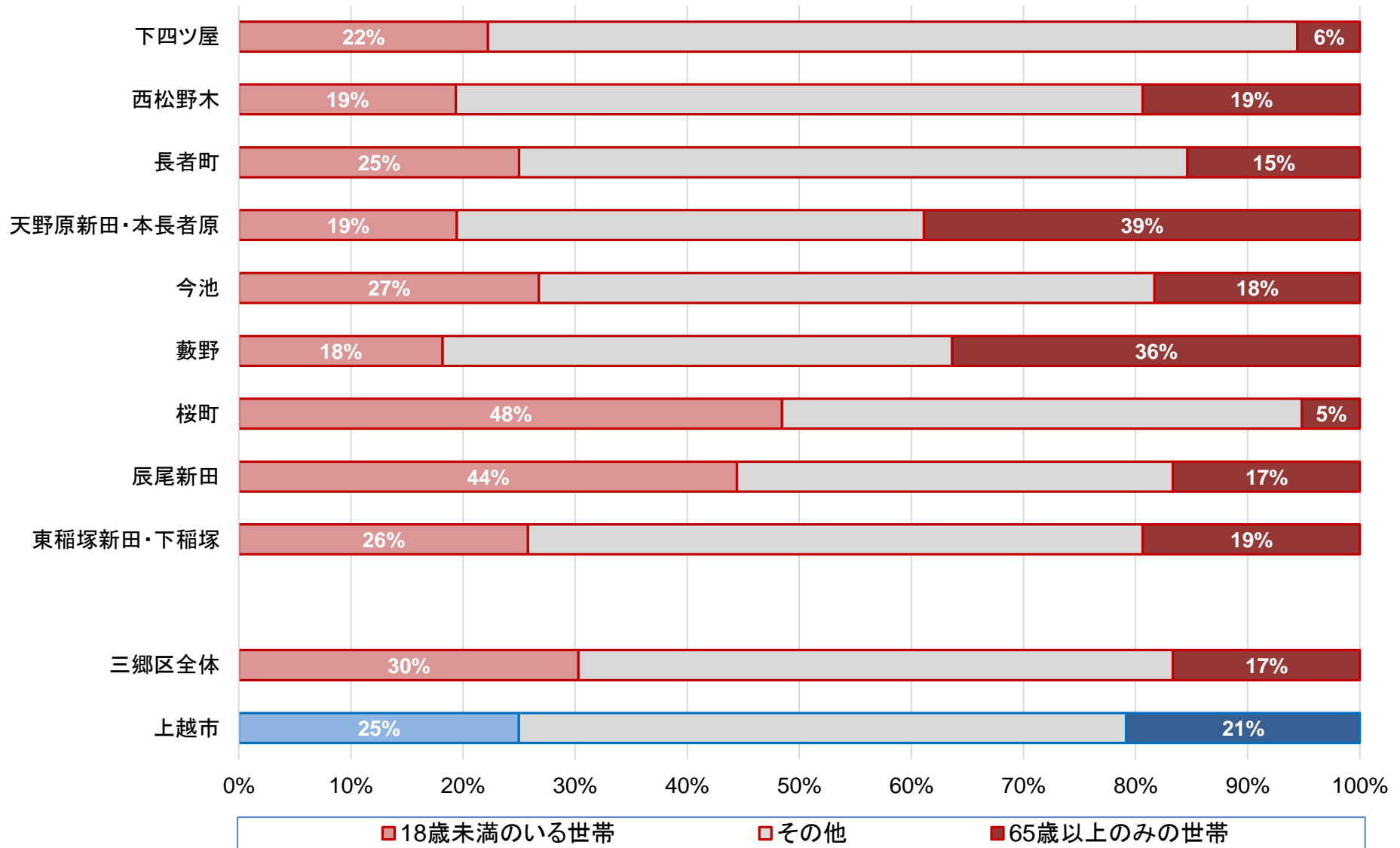
三郷区住所別の世帯構成① (1985 - 2015)

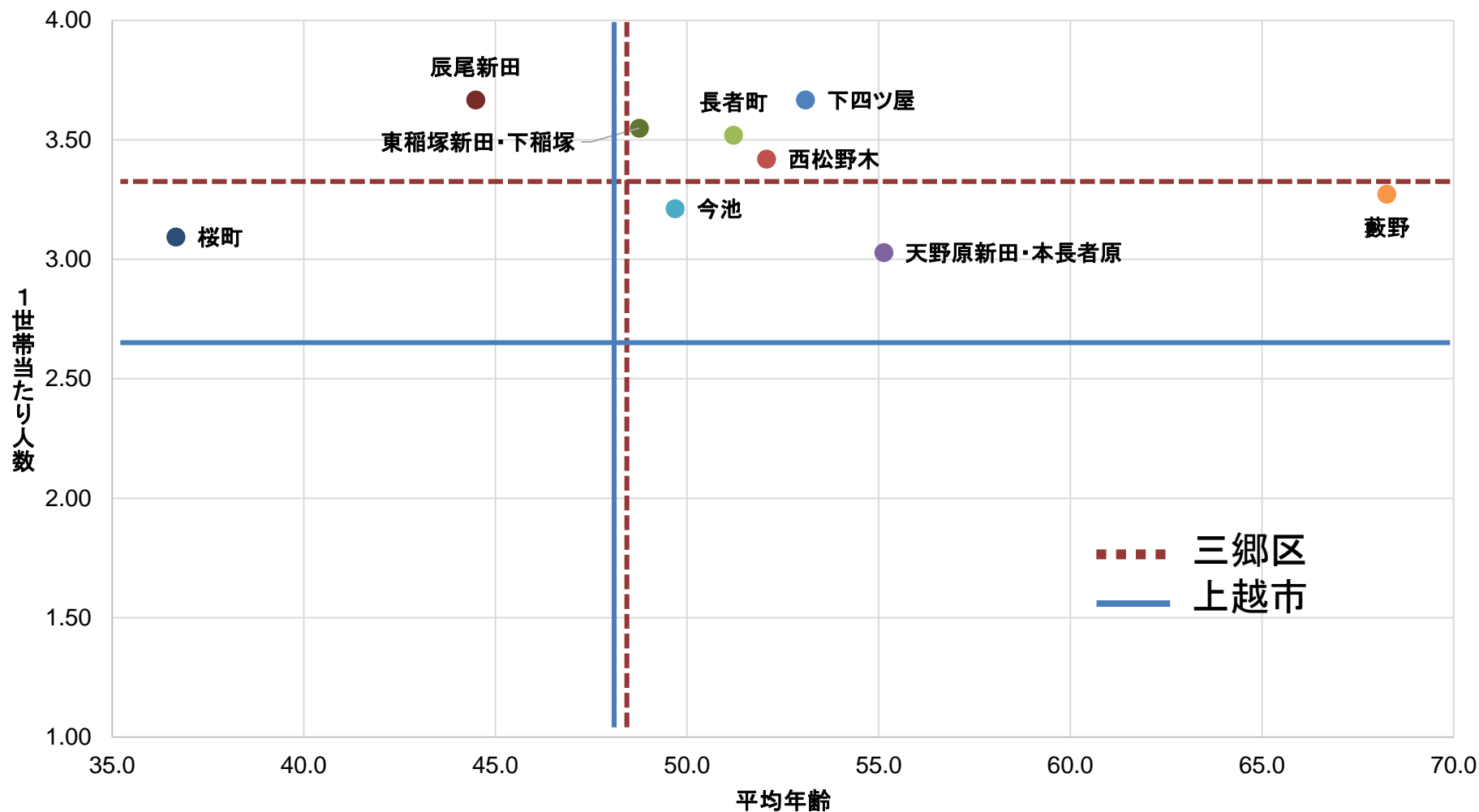


※ 施設等の世帯は除く

※ 桜町のみ2000年との比較

三郷区住所別の世帯構成② (2015)

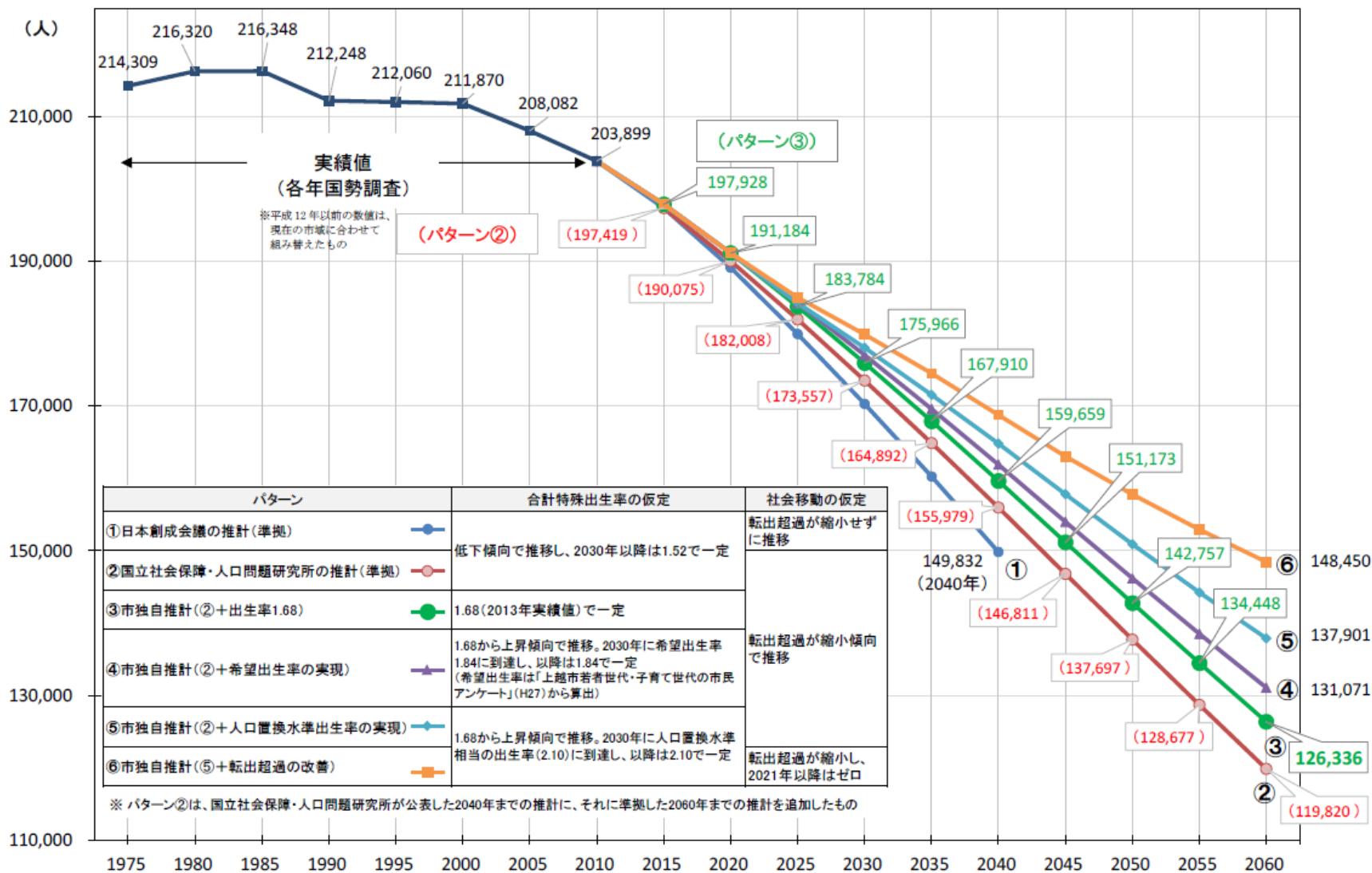




住所地によって傾向は異なるが、市の平均よりも年齢層がやや高く、同居人数の多い住所地が中心。

4 人口の将来予測

上越市の将来推計人口 (1960 - 2060 推計)



は

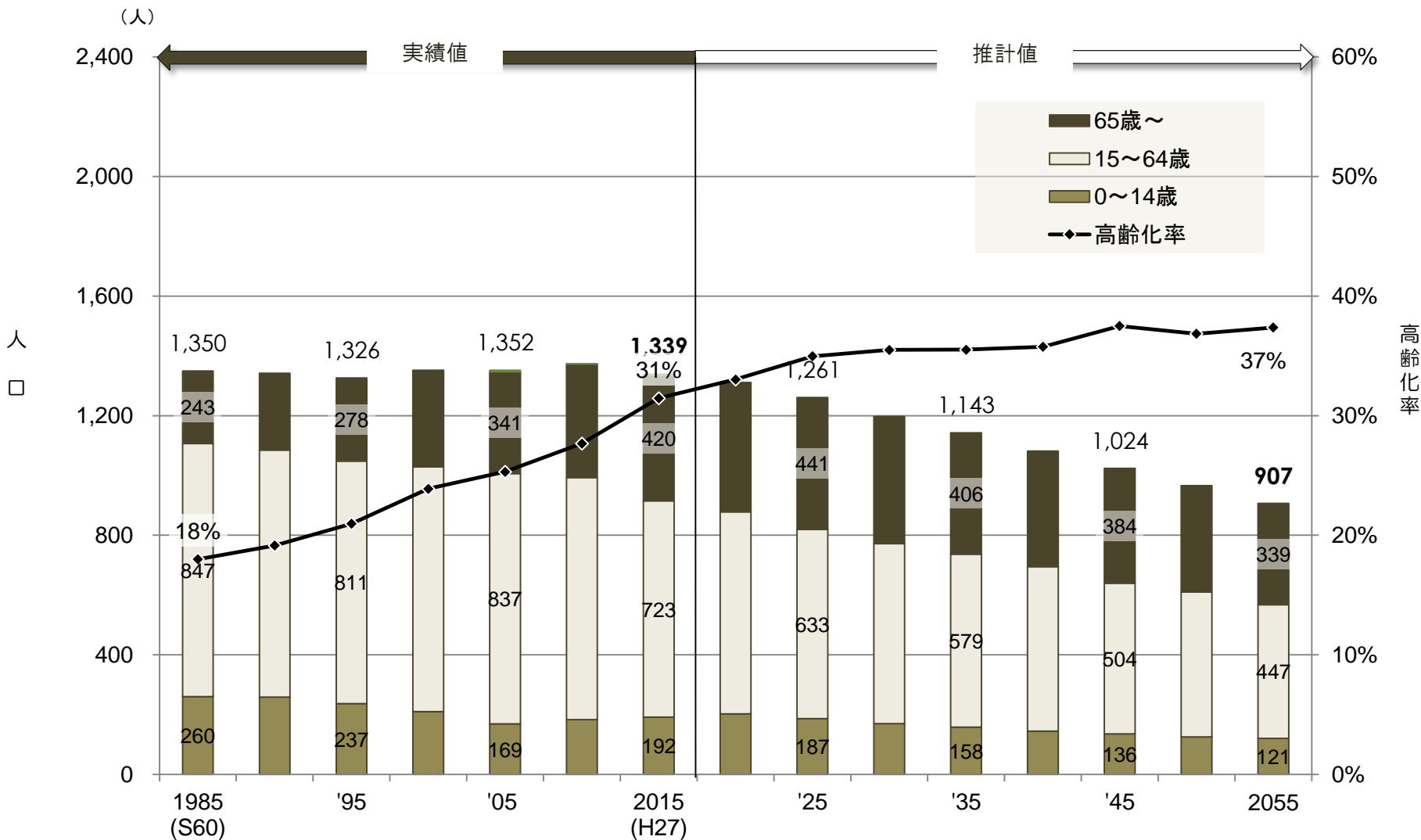


人口減少を覆すことは困難だが、
50~100年後の人口は今後の動向によって大きく変わる。

出所)上越市まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(2015年7月)

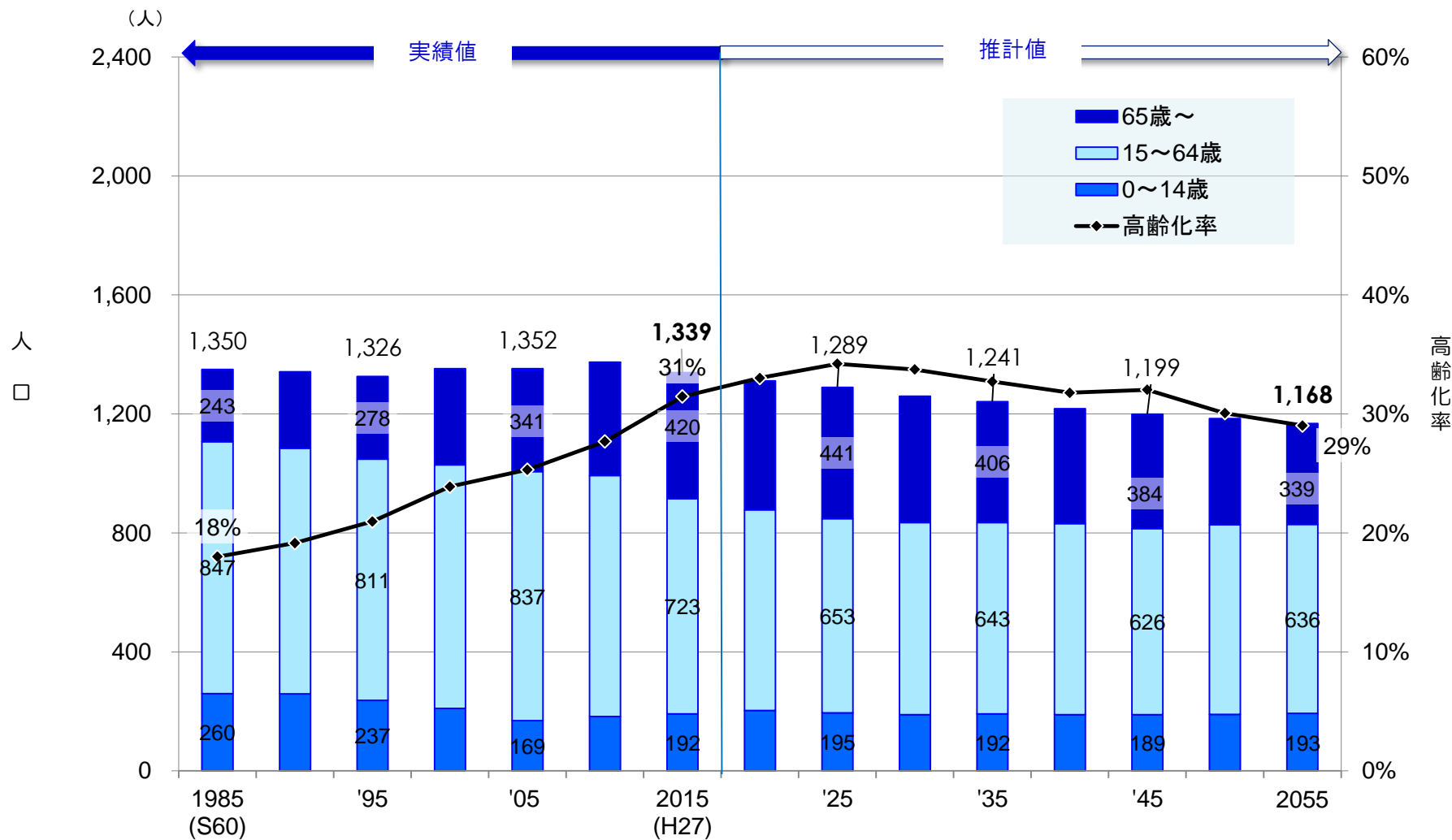
	これまでの動向 (2020概算値)	今後の予測 (2050概算値)
出生	<p>約1,200人 過去30年間で5割近く減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年女性人口の減少が主要因 ・ 未婚率、独身者割合の上昇も影響 ・ 晩婚化の影響も若干あり、ただし既婚世帯の出生傾向に大きな変化はないと推察 	<p>約700人 (このままのペースで進めば)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 未婚率、出生率が横ばいとしても若年女性人口の減少が効く ・ 仮に女性人口の転出超過が解消すれば1,000人以上で一時的に安定
死亡	<p>約2,600人 過去30年間で4割以上増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者数の伸びが主要因 ・ 平均寿命は微増 → 伸びを緩和 	<p>2040年頃に約2,800人(ピーク)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平均寿命+3歳を想定 ・ 平均寿命横ばいなら約3,000人
転入と転出の差	<p>▲ 約500～800人 (※ 過去10年間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ バブル崩壊時を除いて大都市への転出超過が継続 ・ 近年は若年女性が大幅な転出超過 出生数にも影響 	<p>シナリオ次第</p> <p>※ 今後数年間は、転出超過が緩和される見込み(あくまでも18歳人口の減少によるもの)</p>
人口	<p>人口19万人弱 過去30年間で11%減少</p>	<p>人口13万人強 今後30年間で約3割減少 (このままのペースで進めば)</p> <p>要因① 少子化の進行 ② 高齢化の進行(死亡数の増) ③ 転出超過の継続</p>

三郷区の将来推計人口① (このままいくと)



仮に最近の傾向が続けば、今後は急速に人口が減少していく。

三郷区の将来推計人口②（安定化シナリオ例）



👉 例えば、20代～30代の夫婦やその子どもが毎年5人ずつさらに入ってくると、年齢構成のバランスが維持される。

参考

人口問題の受け止め方

上越市全体の状況

- ☑ 上越市の人口は、区ごとに違いはあるが、全体としては横ばい傾向にあった。
- ☑ しかし、転入よりも転出の数が多いことに加え、出生数が死亡数を下回るようになった。
- ☑ その結果、人口減少が進展。特に、子どもの数が減少。
- ☑ これは、若者の転出や未婚化、経済情勢などの影響が考えられる。
- ☑ 上越市全体の世帯数は、人口減少の中にあっても増加傾向。
特に、単身世帯の増加傾向が強い。一方、三世帯世帯は減少している。

三郷区の状況

- ☑ 三郷区の中でも桜町は人口増が続き、若年人口も多い。その他の町内は一部を除き人口減少と高齢化が進む。
- ☑ 人口流入のほとんどは市内からであり、市内の人口減少が加速すれば、桜町を含め、三郷区の人口減少幅も大きくなり、世帯数も減少に転ずる可能性が高い。



人口問題は深刻化する見通し
人口減少の影響を考え、対応や備えが必要

人口構成の変化

- ・人口減少
- ・年齢構成の変化(少子化・高齢化)
- ・世帯構成の変化(単身世帯の増加等)
- ・居住地の変化(過疎化、人口増加等)

住民の数が減ることに加え、
地域の多様性や連帯性が喪失

人口構成の変化による様々な影響(例)

● 地域経済への影響

- ・消費や労働力の減少による生産量の減少
→雇用の減少
→健康福祉への影響または人口の流出



● 健康福祉への影響

- ・健康面に不安を抱える人の増加
- ・セーフティネットを必要とする人の増加
- ・孤独死等の増加



● 教育への影響

- ・生徒数の増減に伴う教育環境の悪化



● 自然環境・災害に関する影響

- ・過疎化による中山間地域の荒廃
→自然災害や鳥獣被害の増加
- ・地域の災害対応力の低下



● 都市整備への影響

- ・空き家や未利用地の増加
- ・既存施設の地震・老朽化対策等の増加



◆ 行財政運営への影響

- ・人的・財政的な経営資源の減少(+地方交付税の減少)
- ・サービス効率の低下(業務量は人口に比例して減少しない)
- ・公的なニーズの増加

1 中長期的な視点を持つ

- ・人口構成そのものをすぐに改善することは困難。
(そもそも、人口減少や高齢化のすべてが悪いわけではない。)
- ・問題の将来への危機感と希望の両方を共有することがスタート。

▶ 比較的安定している今のうちから。地道な活動が20~30年後に花開く。

2 学習と対話・行動の積み重ね

- ・上越市全体の人口減少が課題となっている中で、「パイの奪い合い」の効果なし。
(上越市自体の存続も危ぶまれる)。
- ・三郷区のためになり、上越市全体のためになる取組みとは？
三郷区にしかないもの、市外の人が魅力に感じるものは？

▶ 将来に向けた前向きな学習と対話、行動の積み重ねが本質的な解決のカギ。

- ☑ 魅力ある地域や将来への希望が感じられる地域にする(自ずと人々は集まる)。
- ☑ 地域に愛着と誇りを持ち、生き生きと暮らす人々を増やす。
- ☑ 住んでいなくても、三郷区(住民)のことを気にかけてくれる人々を増やす。

人、歴史、文化・・・それぞれの魅力がある。すでにある魅力に磨きをかけるのが「王道」。次のようなことを老若男女で話し合っって将来像を共有し、協力し合える地域の魅力度アップの可能性は高い。しかも、コンパクトな地域は有利。

① 地域の明るい雰囲気づくり

安心して子育てができ、高齢者が生き生きと暮らせる一石二鳥の取組み

② 心に訴える（心に残る）美しい景観づくり

田園、山、川、住宅など

③ 地域内外の交流づくり

農業体験や異文化交流など



①～③の話し合い・活動の積み重ねの結果として

- ・ どんな住宅地があると良いか・空き家をどう活用するか・・・といった課題も見えてくる。
- ・ 小さな雇用の場ができる、未婚者同士の出会いも生まれる・・・といった可能性も広がる。